

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年7月27日
【事業年度】	第70期（自平成29年5月1日至平成30年4月30日）
【会社名】	日本ビューホテル株式会社
【英訳名】	NIPPON VIEW HOTEL CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 遠藤 由明
【本店の所在の場所】	東京都台東区西浅草三丁目17番1号
【電話番号】	03-5828-4429（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 矢島 学
【最寄りの連絡場所】	東京都台東区西浅草三丁目17番1号
【電話番号】	03-5828-4429（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 矢島 学
【縦覧に供する場所】	日本ビューホテル株式会社 成田ビューホテル （千葉県成田市小菅字三ツ塚700番地）  日本ビューホテル株式会社 伊良湖ビューホテル （愛知県田原市日出町骨山1460番地36）  株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
決算年月	平成26年4月	平成27年4月	平成28年4月	平成29年4月	平成30年4月
売上高 (百万円)	17,645	18,188	19,721	20,179	21,294
経常利益 (百万円)	774	1,058	1,258	1,304	601
親会社株主に帰属する当期 純利益又は親会社株主に帰 属する当期純損失( ) (百万円)	418	587	706	1,554	297
包括利益 (百万円)	418	626	587	1,465	403
純資産額 (百万円)	13,148	14,118	14,543	12,575	12,652
総資産額 (百万円)	21,953	22,866	24,162	23,135	31,046
1株当たり純資産額 (円)	1,394.17	1,463.95	1,503.31	1,323.84	1,342.22
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失 ( ) (円)	44.41	61.32	73.11	160.83	31.54
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円)	-	60.68	72.38	-	31.39
自己資本比率 (%)	59.9	61.7	60.2	54.4	40.8
自己資本利益率 (%)	3.25	4.31	4.86	-	2.40
株価収益率 (倍)	-	35.01	22.10	-	48.06
営業活動によるキャッ シュ・フロー (百万円)	1,980	2,163	2,402	1,983	1,388
投資活動によるキャッ シュ・フロー (百万円)	1,883	1,481	2,015	2,934	4,516
財務活動によるキャッ シュ・フロー (百万円)	632	0	305	600	2,655
現金及び現金同等物の期末 残高 (百万円)	2,809	3,490	3,572	3,221	2,749
従業員数 (人)	810	803	900	900	980
(外、平均臨時雇用者数)	(802)	(826)	(841)	(834)	(924)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第66期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、新株予約権の残高はありますが、当社株式は非上場であったため、期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。

第69期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

3. 第66期の株価収益率については、当社株式は非上場であったため、記載しておりません。

第69期の株価収益率については、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
決算年月	平成26年4月	平成27年4月	平成28年4月	平成29年4月	平成30年4月
売上高 (百万円)	14,705	14,995	16,284	16,789	18,021
経常利益 (百万円)	543	785	1,123	1,277	593
当期純利益又は当期純損失 ( ) (百万円)	214	368	615	1,584	327
資本金 (百万円)	2,579	2,751	2,766	2,769	2,791
発行済株式総数 (千株)	9,431	9,644	9,674	9,680	9,724
純資産額 (百万円)	10,991	11,706	12,157	10,073	10,079
総資産額 (百万円)	19,414	19,954	20,992	19,690	27,656
1株当たり純資産額 (円)	1,165.44	1,213.80	1,256.71	1,060.45	1,069.27
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当 額) (円)	- ( - )	20.00 ( - )	27.00 ( - )	22.00 ( - )	22.00 ( - )
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失 ( ) (円)	22.78	38.49	63.69	163.87	34.80
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円)	-	38.09	63.05	-	34.63
自己資本比率 (%)	56.6	58.7	57.9	51.2	36.4
自己資本利益率 (%)	1.97	3.25	5.06	-	3.25
株価収益率 (倍)	-	55.78	25.37	-	43.57
配当性向 (%)	-	52.0	42.4	-	63.2
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	644 (550)	632 (565)	735 (561)	731 (550)	803 (662)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第66期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、新株予約権の残高はありますが、当社株式は非上場であったため、期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。

第69期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

3. 第66期の株価収益率については、当社株式は非上場であったため、記載しておりません。

第69期の株価収益率については、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。

4. 第68期の1株当たり配当額には、1株当たり5円の記念配当が含まれております。

## 2【沿革】

当社は、創業者・箭内源典が、栃木県那須郡那須町において合資会社小松屋石雲荘により旅館業を営んでいたことがその後のホテル業界での事業展開の契機となっております。

箭内源典は、昭和28年5月に那須観光株式会社として当社を設立し、地域社会の発展と国際親善に貢献することを経営理念としてホテル事業を開始いたしました。

昭和35年7月の那須ビューホテルの開業以降、伊良湖ビューホテル、成田ビューホテル、高崎ビューホテル、秋田ビューホテル、浅草ビューホテル等を開業し業容を拡大しておりましたが、日本のバブル経済崩壊を契機として、それまでの過大な投資により平成13年9月に当社およびグループ8社は民事再生手続開始の申立てを行いました。

その後、当社グループは全社一丸となって経営再建に取り組み、平成24年3月には再生債務全額を完済しております。

また、平成26年7月に東京証券取引所市場第二部に当社株式を上場し、平成27年7月には東京証券取引所市場第一部に指定されております。

昭和25年4月	創業者・箭内源典が栃木県那須郡那須町に旅館経営を目的とした合資会社小松屋石雲荘を設立し、石雲荘を開業
昭和28年5月	那須地区における近代的洋風ホテルの経営を目的として、資本金1,600千円で那須観光株式会社（本店登記：栃木県那須郡那須町大字湯本212番地）を設立
昭和35年7月	那須ビューホテルの営業開始
昭和39年11月	那須地区におけるレジャー施設（りんどう湖ファミリー牧場：昭和40年6月 営業開始）の経営を目的として、那須興業株式会社（現・連結子会社）を設立
昭和41年5月	旅行商品の販売・企画を目的として、那須興業株式会社の100%出資によりファミリー観光有限会社を設立
昭和41年12月	那須観光株式会社を日本ビューホテル株式会社に商号変更
昭和43年5月	伊良湖ビューホテルの営業開始
昭和49年1月	朝日新聞事業株式会社との合併で、海外におけるホテル経営及び経営指導を目的とした株式会社アサヒビューインターナショナル（以下、「AVI」という）を設立
昭和49年6月	成田ビューホテルの営業開始
昭和50年2月	成田空港地域での一般貸切自動車の運送事業を目的として、エアポートバス株式会社を設立
昭和52年8月	ホテルビューパレスの営業開始
昭和52年10月	ホテルの運営受託等を目的として、日本ビューホテル事業株式会社（現・連結子会社）を設立
昭和53年5月	郡山ビューホテルの営業開始
昭和56年5月	AVIの経営指導により、スパンビューホテル（マレーシア）が営業開始
昭和56年7月	高崎ビューホテル株式会社を設立（昭和58年4月 営業開始）
昭和57年5月	当社グループの損害保険代理店業務を行う会社として、株式会社ヤナイを設立
昭和57年9月	秋田ビューホテル株式会社を設立（昭和59年5月 営業開始）
昭和57年11月	AVIの合併会社により、デサルビューホテル（マレーシア）が営業開始
昭和60年4月	AVIの経営指導により、リバービューホテル（シンガポール）が営業開始
昭和60年7月	浅草ビューホテル株式会社を設立（昭和60年9月 営業開始）
昭和62年5月	広告、企画、宣伝事業を目的として、株式会社ビューアドバタイジングを設立
昭和63年8月	牧場の経営、乳製品の生産を目的として、有限会社那須牧場（現・非連結子会社）を設立
平成2年10月	株式会社郡山国際ホテルを買収し、郡山ビューホテル株式会社に商号変更。郡山ビューホテルおよび郡山国際ホテルを運営
平成3年4月	郡山国際ホテルを郡山ビューホテルアネックスと改称し、営業開始
平成4年6月	AVIの経営指導により、オルベリビューホテル（モルジブ）が営業開始
平成5年3月	本店を東京都台東区西浅草三丁目17番1号（現所在地）に移転
平成8年8月	浅草ビューホテル株式会社からの営業譲渡を受け、浅草ビューホテルを直営店舗とする

平成8年8月	当社が所有する那須ビューホテルおよびホテルビューパレスを那須興業株式会社へ賃貸開始
平成12年4月	浅草ビューホテル株式会社の清算終了
平成13年5月	秋田ビューホテル株式会社を吸収合併
平成13年9月	日本ビューホテル株式会社およびグループ8社（高崎ビューホテル株式会社、郡山ビューホテル株式会社、那須興業株式会社、有限会社那須牧場、日本ビューホテル事業株式会社、エアポートバス株式会社、株式会社ビューアドバタイジング、合資会社小松屋石雲荘）は、東京地裁に民事再生手続を申立て
平成14年3月	民事再生計画案を提出
平成14年7月	当社が所有する那須ビューホテルおよびホテルビューパレスを那須興業株式会社に譲渡
平成14年8月	民事再生計画認可決定が確定し、合資会社小松屋石雲荘のみ会社清算
平成16年8月	A V I を特別清算
平成17年8月	東京地裁から民事再生手続終結決定
平成21年5月	日本ビューホテル事業株式会社（現・連結子会社）を100%子会社化
平成21年6月	株式会社ビューアドバタイジングを100%子会社化
平成21年11月	株式会社ビューアドバタイジング及び株式会社ヤナイを吸収合併
平成22年1月	那須ビューホテルの営業を終了
平成22年3月	当社が保有する郡山ビューホテル株式会社の株式を当社グループ外に一部売却（出資比率を9.94%に引き下げ）
平成22年10月	エアポートバス株式会社の事業・資産を当社グループ外に譲渡
平成23年4月	高崎ビューホテル株式会社を吸収合併。エアポートバス株式会社を会社清算
平成23年5月	那須興業株式会社（現・連結子会社）を株式交換により100%子会社化
平成24年3月	第1回新株予約権の全部行使による増資および金融機関からの借入により、再生債務全額を完済
平成26年4月	りんどう湖ファミリー牧場を那須りんどう湖 LAKE VIEW に改称
平成26年7月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場
平成27年7月	東京証券取引所市場第一部に指定
平成27年11月	両国ビューホテルの営業開始
平成29年5月	札幌ビューホテル大通公園の営業開始
平成30年1月	高崎ビューホテルの事業・資産を当社グループ外に譲渡
平成30年5月	大阪ビューホテル本町の営業開始

### 3【事業の内容】

当社グループは、当社（日本ビューホテル㈱）、連結子会社（那須興業㈱、日本ビューホテル事業㈱）、非連結子会社（有那須牧場）、その他の関係会社（ヒュリック㈱）の計5社で構成されており、ホテル事業、施設運営事業および遊園地事業を主要な事業としております。

#### （1）当社グループの事業内容

当社グループでは、当社および関係会社の位置付け並びに事業の種類から、次のとおりセグメントを区分しております。

なお、次の事業内容の区分は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に掲げるセグメントと同一の区分であります。

#### ホテル事業

当社および連結子会社である那須興業㈱において、ホテル事業として、当社グループが有する経験およびノウハウを最大限に発揮すべく「VIEW HOTEL」ブランドによる直営（一部のホテルについては、土地・建物の賃借による直営）でのホテル経営を行っております。

現在運営しているホテルの形態にはシティホテル型とリゾートホテル型があり、各ホテルには立地や規模に応じて、客室の他、レストラン・バー等の料飲施設、結婚式場、宴会場、会議室等を設置し、宿泊、料飲、宴会・婚礼の各部門の営業を行っております。また、ホテルによってはスパや温泉などを設け、顧客が快適に過ごせるよう施設の充実を図っております。

当社グループのホテル事業の特徴は、次のとおりであります。

#### ）ホスピタリティ

当社グループの発祥である旅館時代から続く『おもてなし』を提供することを、現在もホテリエという職業の使命として受け継いでおります。顧客への『親しみのある、あたたかい"おもてなし"』を基本としてサービスを提供しております。

#### ）地域密着

当社グループの各施設は、当該地域においてブランド力・知名度を有しております。地域社会と積極的に交流を深め信頼関係を構築することで、更に地域を愛し、地域に愛されるホテルとなるよう取り組んでおります。

#### ）ビュー（景色・ロケーション）

浅草ビューホテル・伊良湖ビューホテルを代表として、施設から見渡すビュー（景色）を価値あるサービスのひとつとして提供しており、顧客からの評価を高めております。また、観光資源や観光・ビジネスの拠点としての立地を重視した展開をしております。

#### ）進化と変化

マーケット、顧客ニーズ、時代や社会に即した経営に取り組んでおります。施設・サービス・商品の進化と変化を図ってまいります。

#### 施設運営事業

連結子会社である日本ビューホテル事業㈱において、施設運営事業として、「VIEW HOTEL」ブランド以外のホテルや旅館の経営、ホテルや旅館、保養所の運營業務受託、運営指導を行っております。また、「VIEW HOTEL」ブランドを用いたFC契約によるチェーン展開も施設運営事業において行っております。

賃借による運営では、賃借した土地・建物において当社グループによる直営方式でのホテルや旅館の経営を行っております。また、運営委託者の要望に応じて、委託料を受領し運營業務を受託する形態での運営受託やホテル・旅館経営のノウハウを提供する運営指導も行っております。

その他、人材派遣、物販およびビル管理業務等を行っております。

#### 遊園地事業

連結子会社である那須興業㈱において、遊園地事業として、栃木県那須高原に位置するレジャー施設である那須りんどう湖 LAKE VIEWを運営しております。那須りんどう湖 LAKE VIEWは、自然に恵まれた広大な園内に那須高原唯一の湖を有し、各種の動物、乗物、アトラクション、レストラン等を設置するとともに多彩なイベントの開催により、那須高原を代表するレジャー施設として認知されております。

セグメント	会社名	事業の種類
ホテル事業	日本ビューホテル株式会社(当社)	《シティホテル》 浅草ビューホテル(直営)、成田ビューホテル(直営)、秋田ビューホテル(直営)、両国ビューホテル(直営)、札幌ビューホテル大通公園(直営)、大阪ビューホテル本町(直営)、郡山ビューホテル(運営指導)(1)、郡山ビューホテルアネックス(運営指導)(1) 《リゾートホテル》 伊良湖ビューホテル(直営)
	那須興業株式会社(2)	《リゾートホテル》 ホテルビューパレス(直営)(4)
施設運営事業	日本ビューホテル事業株式会社(2)	《旅館》 ぎょうけい館(直営)、ホテルグリーンパール那須(直営)、おきたま路(直営) 《シティホテル》 ホテルプラザ菜の花(直営)、平ビューホテル(FC)、岡山ビューホテル(FC)、ホテルグランビュー沖縄(運営指導)、ホテルグランビューガーデン沖縄(運営指導)、ホテルグランビュー石垣(運営指導) 《その他》 上記の他、旅館(1施設)保養所(1施設)の運営業務受託、物販およびビル管理など
遊園地事業	那須興業株式会社(2)(3)	《遊園地》 那須りんどう湖 LAKE VIEW(4)

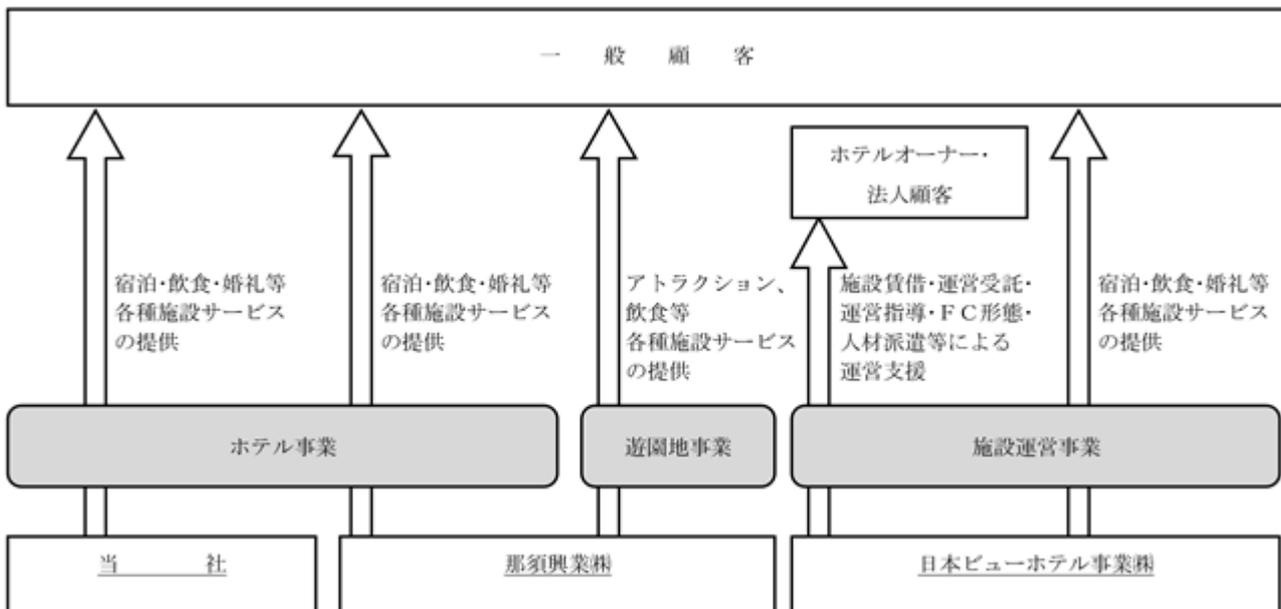
1 郡山ビューホテルおよび郡山ビューホテルアネックスは、平成22年3月まで当社グループのホテルとして運営しており、同年に郡山ビューホテル(株)株式を当社グループ外へ一部売却したことに伴って、当社グループから外れておりますが、現在当社が運営指導を行っているためホテル事業に区分しております。

2 那須興業(株)および日本ビューホテル事業(株)は日本ビューホテル(株)の100%子会社であります。

3 那須興業(株)にはその100%子会社である(有)那須牧場があり、家畜の育成や原乳の生産等を行っております。

4 那須りんどう湖 LAKE VIEWおよびホテルビューパレスは、那須興業(株)の事業部門であります。

[ 事業系統図 ]



#### 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有 又は被所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 那須興業株式会社	栃木県那須郡 那須町	44	ホテル事業 遊園地事業	100	販売協力 役員の兼任3名
日本ビューホテル事業株式会社	東京都 台東区	40	施設運営事業	100	販売協力 役員の兼任2名
(その他の関係会社) ヒューリック株式会社	東京都 中央区	62,641	不動産事業	被所有 26.8	業務提携 役員の兼任1名

(注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報の名称を記載しております。

2. 平成30年4月1日を効力発生日として、那須興業株式会社を存続会社、ファミリー観光有限会社を消滅会社とする吸収合併を行いました。

#### 5【従業員の状況】

##### (1) 連結会社の状況

平成30年4月30日現在

セグメントの名称	従業員数(人)	
ホテル事業	824	(679)
施設運営事業	91	(161)
遊園地事業	65	(84)
合計	980	(924)

(注) 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(嘱託社員、パートタイマー、配膳人を含み、人材派遣会社からの派遣社員を除く。)は、年間の平均人員(1日8時間換算)を( )内に外数で記載しております。

##### (2) 提出会社の状況

平成30年4月30日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
803(662)	35.9	10.2	4,297,408

セグメントの名称	従業員数(人)	
ホテル事業	803	(662)
合計	803	(662)

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(嘱託社員、パートタイマー、配膳人を含み、人材会社からの派遣社員を除く。)は、年間の平均人員(1日8時間換算)を( )内に外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与および基準外賃金を含んでおります。

3. 平均年間給与には、社外から当社への出向者分の給与は含んでおりません。

##### (3) 労働組合の状況

当社グループの労働組合は結成されておりませんが、労使関係は安定しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境および対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営方針

当社グループは経営理念を、「顧客第一主義を基本に、いつまでも信頼される日本有数のホテルチェーンを目指し、魅力ある商品と心のこもったサービスを通じて、顧客の安全はもとより、感動と喜びを提供し続けることにより、グローバル社会に対応できる企業として地域社会の発展と国際親善に貢献する」としております。

この経営理念の下、「私たちは、地域や関わる人々とのつながりを大切にしながら、料理へのこだわりと親しみのあるあたたかいサービスによって心地よいホテルライフを提供し、社会に必要とされるホテルグループを目指します。」とするグループのミッションを掲げ、「ホスピタリティ：あたたかいおもてなし」、「地域密着：地域を愛し、地域に愛されるホテル」、「ビュー：景色・ロケーション」、「進化と変化：マーケットや社会への対応」をコンセプトとして事業活動に取り組んでおります。

#### (2) 経営戦略等

当社グループは、平成30年4月期を初年度とする4ヶ年の中期経営計画「VIEW HOTELS Mission - Sustainable Growth -」を策定し、長期持続的な成長に向けた基本的な経営戦略を定めております。当社グループの事業展開におけるバックボーンとして、「形式にとらわれず温かみの親しみのあるサービス」、「立地条件や市場に即した営業戦略により利益創出」、「多様な販売チャネルを駆使した多様な顧客層から集客力」、「"食のVIEW"、"味のVIEW"へのこだわり」、の4つと捉え、これらの強み、特徴を生かしながら以下の戦略に取り組んでまいります。

##### 長期的な経営の視点に立った設備投資

安心・安全への取組みの強化。資産価値の維持・向上、収益性・投資効率の向上、の3つをポイントとして、設備投資を行ってまいります。エンジニアリングレポート（ER）に基づく防火、防災、防犯、衛生設備の更新、充実や戦略的な施設の改装を行うとともに、将来的な成長性に鑑みた施設の編成に取り組んでまいります。

##### 新規ホテルの展開

都市型観光ホテルを基本コンセプトとして、観光資源に恵まれたエリアや観光・ビジネスの拠点となるエリアにおいて新規ホテルの展開を進めてまいります。出店形態は、賃借による直営方式を基本にしながら、アッパーミドル層をターゲットとしたホテルを展開してまいります。

なお、最近における新規事業案件としては、平成29年5月3日に札幌ビューホテル大通公園を開業し、平成30年5月22日には大阪市に大阪ビューホテル本町を開業いたしました。また、平成32年春の浅草ビューホテル別邸（仮称）の開業を目指し、協議を進めております。

##### ビューホテルらしさによるブランド価値の向上

当社グループが顧客に提供する人的サービス等は、無形価値として、強固なホテルグループの構築には必須とされるものであります。「ビューホテルらしさ」を追求していく事で、企業理念の浸透とともに商品とサービスの品質向上を図り、顧客満足を高めてまいります。ホテルのブランド価値、企業グループのブランド価値の向上により、企業価値の更なる拡大を目指してまいります。

##### 施設運営事業および遊園地事業について

施設運営事業においては、既存事業所の業績拡大をめざし、販売力の強化を図ってまいります。

那須りんどう湖 LAKE VIEWでは、本社営業部の管轄を拡大し事前販売体制の強化を図るとともに、コンサルタントと契約し、新アトラクションの導入や新たな広告、PR手法を取り入れるなど、収益力の向上を図ってまいります。

##### 財務の健全性について

当社グループは、中期経営計画において、今後の長期持続的な成長を実現させるために積極的な設備投資を計画しておりますが、この計画策定にあたっては、財務基盤の健全性の維持を前提としております。当連結会計年度末日時点において、当社グループのネット有利子負債(\*)は12,433百万円となっており、今後においても、健全な財務基盤を維持していく方針であります。

(\*) ネット有利子負債 = 有利子負債（割賦未払金、リース債務含む） - 現金及び預金

(\*) 有利子負債には札幌ビューホテル大通公園の賃貸借契約に係るリース債務5,103百万円を含みます。

## (3) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、中期経営計画「VIEW HOTELS Mission - Sustainable Growth -」におきまして、平成33年4月期での経営指標（連結）の目標を以下のとおり定めております。

売上高	250億円
営業利益	17億円
経常利益	16億円
E B I T D A	37億円
R O E	7.3%
直営ホテル・旅館	13施設

E B I T D A：減価償却前営業利益 = 営業利益 + 減価償却費

新規ホテルの展開により収益の柱を増やし、長期持続的な成長サイクルの構築を図っていく方針です。

## (4) 経営環境

当社グループの事業を取り巻く環境は、国民のレジャー・余暇生活への重点意識が高い水準で推移する中、観光立国政策による訪日外国人旅行者数が大きな伸びを続けており、ホテル業界、観光業界における市場の拡大が期待されております。

一方、国内人口の減少、少子高齢化、人口の都市部への集中といった流れが加速しており、マーケットの縮小や労働力不足などといった日本経済の将来の不安要素となっております。また、主要都市を中心とする新規ホテル開業による競争激化や民泊の広がり、消費行動の変化・多様化などがあり、このような経営環境の変化への対応が重要であると認識しております。

## (5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当社グループは、「顧客第一主義を基本に、いつまでも信頼される日本有数のホテルチェーンを目指し、魅力ある商品と心のこもったサービスを通じて、顧客の安全はもとより、感動と喜びを提供し続けることにより、グローバル社会に対応できる企業として地域社会の発展と国際親善に貢献する」という経営理念の下に事業活動を行っております。この理念の実現に向けて、平成30年4月期を初年度とする4ヶ年の中期経営計画「VIEW HOTELS Mission - Sustainable Growth -」を策定し、長期持続的な成長に向けた基本的な経営戦略を定めております。この戦略の実行にあたって、下記の事項を対処すべき課題として認識し、経営に取り組んでまいります。

## 事業基盤の拡大

当社グループは、事業基盤と収益力の拡充による中長期的な企業価値の向上のため、施設の新設や既存施設のリニューアルを中心とした戦略投資を実施しております。

これまで、旗艦ホテルである浅草ビューホテルを中心に、客室、レストラン、宴会場等の改装を実施してまいりましたが、今後も既存ホテルの改装等の戦略的な設備投資を行ってまいります。

また、長期持続的な成長の基盤となる新規ホテルの展開を着実に進めていくため、事業開発室を主管部署として、観光資源に恵まれたエリアや観光・ビジネスの拠点となるエリアにおいて新たな事業拠点を開発していくことで、収益力の強化に取り組んでまいります。

## 安全・安心確保のための取り組み

当社グループは、顧客の安全・安心の確保が最重要事項であると考えており、施設の安全性向上を目的とした設備投資、防災防犯体制の強化、より安全な食の提供等に取り組んでおります。

施設の安全性の向上につきましては、継続的に補強や改修への投資を実施してまいりましたが、これまで発生した大規模な自然災害からの教訓や当社グループの施設内での事故からの反省等を踏まえ、今後も当社グループの各施設における検証を重ね、より高い安全性の確保に取り組んでまいります。

また、当社グループの事業においては、顧客への飲食の提供が主要なサービスの1つであり、特に食品の衛生品質管理と正確な情報の提供が重要であると考えております。社員への啓蒙や外部の専門業者による講習会の実施、定期的な検査などにより衛生管理体制の強化に努める他、表示の正確性確保のため、社内のチェック体制および社員教育等の強化を行っており、今後もこれらを継続していくことで、顧客に安全・安心を提供する体制の強化を進めてまいります。

## 人材の育成

日本国内における少子高齢化に伴う労働人口の減少は、労働集約型産業であるホテル業の人材確保を困難にするとともに、賃金の上昇による人件費の増加に繋がる可能性があります。このような社会情勢において当社グループが成長していくためには、非正規雇用社員も含めた社員教育の充実が不可欠であります。現在本社総務部および事業統括部を主管部署として、階層別、部門別の体系的な社員教育、人材育成のプログラムを策定しスタートさせております。今後このプログラムを更に充実させ、社員一人一人の能力向上に取り組んでまいります。

また、新入社員研修期間におけるジョブローテーションを継続していくことにより社員の多様な能力を引き出すとともに、非正規雇用社員の活用も含め適材適所かつ効率的な人員配置を実施し、企業グループ全体で労働生産性を高めてまいります。

## 集客力と収益力の強化

当社グループが経営するホテルや遊園地は其々長年にわたる経営の継続により顧客からの支持や取引先からの信頼を確立してまいりました。一方、経済情勢の変化、競合施設の新規出店、顧客層とそのライフスタイルの変化などに鑑み、今後は新たな戦略が必要であると認識しており、以下の営業部門別の基本戦略を定め、取り組んでいくことで、集客力と収益力の強化を図ってまいります。

### ）宿泊部門

- ・レベニューマネジメント（需要動向予測に基づく料金プラン設定）による収益の最大化
- ・改装やメンテナンスによる快適な客室環境の整備と江戸下町情緒などを織り込んだ魅力ある商品企画

### ）婚礼部門

- ・ウェディング商品の継続的な発表とコンセプトの浸透による集客力の強化
- ・教育研修によるブライダルプランナーの接遇力と成約率のレベルアップ

### ）一般宴会部門

- ・教育研修による営業担当者の接遇力と成約率のレベルアップ
- ・顧客リストの活用と新規法人顧客の開拓のための営業体制の強化

### ）レストラン部門

- ・世代や国籍など多様な顧客に楽しんでいただける料理と空間の創出
- ・インターネットやポイントカードシステムを活用した積極的且つ効果的な情報発信による集客の強化

### ）遊園地事業

- ・魅力あるアトラクションの設置や多彩なイベントを開催することによる集客拡大

## 2【事業等のリスク】

当社グループの事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項を以下に記載しております。あわせて、必ずしもそのようなリスクに該当しない事項についても、投資者の判断にとって重要であると当社が考える事項については、積極的な情報開示の観点から記載しております。なお、本項の記載内容は当社株式の投資に関する全てのリスクを網羅しているものではありません。

当社は、これらのリスクの発生可能性を認識した上で、発生回避および発生した場合の迅速な対応に努める方針がありますが、当社株式に関する投資判断は、本項および本項以外の記載内容もあわせて慎重に検討した上で行っていただく必要があると考えております。本項記載の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 景気動向、経済情勢の影響について

当社グループは、日本国内において、ホテル、旅館および遊園地等を展開しておりますが、これらの事業は個人消費や企業活動などの景気動向の影響を受けやすい傾向にあります。経済情勢の悪化等による企業業績の低迷や個人消費の低迷、雇用状況の悪化が生じた場合には、利用者数の減少や利用単価の下落等が生じ、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

### (2) 海外情勢について

隣国との領土問題、テロ行為や国際的な戦争の勃発、反日感情の増大等の世界情勢の変化は、外国人観光客の減少、海外渡航の自粛又はレジャーや祝事に対する消費マインドの減退に繋がることが予想され、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

### (3) 災害や感染症の発生による影響について

当社グループは、顧客の安全と安心を最重要事項と認識し、リスク管理委員会において災害によるリスクの分析や対応策の検討、防災規程および防災マニュアルの整備等を行うほか、施設における耐震補強工事の実施等により、安全と安心の確保には万全の注意を払っております。

しかしながら、当社グループが事業展開する各地域における、大規模な地震、台風、大雨、津波等の災害の発生は、当社グループの所有する建物、施設等に損害を及ぼし、一時的な営業停止による売上減少や修復のための費用負担が発生する可能性があるほか、地域における需要減少等による稼働率低下等が生じる可能性があります。また、新型インフルエンザ等の新たな感染症の発生や蔓延は、遠距離移動や団体行動の制限が予想され、これらの事象が発生した場合には、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

### (4) 少子高齢化について

当社グループのホテル事業、遊園地事業においては、レジャーや祝事での顧客の利用が売上の大きな要因となっております。そのため、少子高齢化による消費人口の減少は、事業におけるマーケットの縮小となり、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

### (5) 法的規制等について

当社グループの事業において展開をしているホテル、旅館、遊園地等は、旅館業法、建築基準法、消防法、食品衛生法等の法的規制を受けております。当社グループは、これらの法令等の遵守に努めておりますが、現在の当該規制の強化や改正或いは新たな規制が設けられた場合には、規制を遵守するために必要な費用や営業上の制約が発生する可能性があります。また、会計基準や税制、社会保険制度等の変更や新たな追加により当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、会計基準や税制、社会保険制度等の変更や新たな追加により当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

なお、ホテルまたは旅館の運営の前提として、ホテル営業または旅館営業の許可を受けております。その中でも、当社グループの事業に与える影響が大きい浅草ビューホテルに係る許認可については次のとおりであり、現在取消事由に該当している事項はありません。

営業許可の種類	番号	有効期限	取消事由
旅館業営業許可 (旅館・ホテル営業)	8台浅健衛環き第20号	自 平成8年11月21日 至 期限の定めなし	旅館業法第8条

(6) 新規事業案件への取り組みについて

当社グループは、今後の事業展開において既存施設の収益力強化に加え、ホテル等の新規施設の展開を検討しております。新規事業案件の獲得においては、運営受託や賃借物件、既存物件の買収等、多様な形態で展開していく方針であり、高い収益性が見込まれる案件を中心に検討を進めております。新規事業の各案件における契約内容等の諸条件によっては、当社グループにおける新規事業展開が想定通りに実現出来ない可能性があります。

なお、新規事業案件の状況としては、平成29年5月3日に札幌ビューホテル大通公園を開業し、平成30年5月22日には大阪市に大阪ビューホテル本町を開業いたしました。また、平成32年春の浅草ビューホテル別邸（仮称）の開業を目指し、協議を進めております。

(7) 食品にかかる衛生管理について

当社グループは、レストラン、宴会場等において食事や飲料の提供を行っており、食に対する安全確保を当社グループの使命として認識しております。当社グループでは、各店舗における衛生管理に係るマニュアル等の整備や従業員に対する教育指導の徹底に加え、外部の専門業者による各種衛生検査等により食品にかかる衛生管理体制の強化に努めておりますが、万一、当社グループにおいて食中毒事故や何らかの食品衛生上の問題が発生した場合、一定期間の営業停止等の処分を受ける可能性がある他、企業イメージの低下による顧客離れが起こり得ることから、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 食材等の安定的な調達について

当社グループは、事業において、食材である生鮮食材および加工品等は仕入業者を通じて仕入れております。食材価格については、天候不順や災害等による農作物の不作や、海外産地における情勢不安、為替変動等の要因や仕入先企業の状況等により、食材価格が高騰する又は調達が困難となる可能性があります。

当社グループは、これらのリスクを回避するため、複数産地(国)での食材選定や複数業者からの仕入を行っておりますが、これらのリスクが顕在化した場合や燃料費や電気料金等が高騰した場合には、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、近年は、食品への異物混入による健康被害や食品の偽装表示、あるいはウィルス感染に起因する集団食中毒の発生等、消費者の「食の安全性」に対する信頼を損なう問題が発生しております。今後も同様の事件・事故が発生し、消費者心理に不安が高まるなどの事態が生じた場合、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 人材の確保および育成について

当社グループの事業においては、顧客に満足して頂けるサービスを提供していくため、高いサービスマインドを持った人材の確保と育成が重要な課題であると認識しております。

当社グループは、サービス向上と業務の効率化のため、社員の教育プログラムの充実に取り組んでおりますが、人材の確保や育成の計画に大幅な遅れが生じた場合、サービスの低下による顧客の離反や業務効率の低下による人件費の増加が生じ、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 個人情報保護について

当社グループでは、顧客の個人情報や取引先企業の情報等を取り扱っております。営業上の秘密情報の管理は、社内の情報管理部門が中心となり、業務システムでの情報管理機能の強化、規程やマニュアルの整備、社員への教育、啓蒙などにより外部への流出防止を行っております。今後も情報システムの高度化に伴うリスクに対処するべく十分留意してまいります。万が一情報の漏洩が発生した場合、当社グループの信用の失墜やブランド力の低下並びに損害賠償等の費用負担等により、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 業績の季節変動について

当社グループにおいて、遊園地事業では夏季に来園者数が増加する一方で冬季には減少する傾向があり、これに起因して第2四半期に売上高および営業利益が増加し、第3四半期から第4四半期にかけて売上高が減少し営業損失を計上する傾向が生じております。また、ホテル事業では、10～12月頃に婚礼・宴会等が増加する傾向があり、これに起因して第3四半期に売上高および営業利益が増加する傾向が生じております。当社グループの連結決算については、これら季節変動要因により、第2四半期および第3四半期の売上高および営業利益が、第1四半期および第4四半期と比較して増加する傾向があります。

なお、各事業における外部環境その他の要因による売上高の増減や改装等の設備投資などの影響により、連結業績については上記の季節変動とは異なる結果が生じる可能性があります。

(12) 浅草ビューホテルの業績による影響について

浅草ビューホテルは、当社グループのホテル事業における旗艦ホテルであり、現在当社グループは、同施設の改装を中心とした戦略投資を実施しております。これに加え、近年東京スカイツリーの開業や訪日外国人旅行者の増加等を要因に近隣における観光需要が増しており、同施設は当社グループの他施設と比較して高い稼働率を維持しております。

当社グループは他の施設においても戦略投資等による業績の向上に積極的に取り組んでまいりますが、当連結会計年度における連結売上高に占める浅草ビューホテルの売上高の割合は35.9%であり、利益面での貢献度はより高いことから、今後において観光需要その他の要因により同施設の業績が変動した場合には、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(13) 有利子負債について

当社グループは、事業基盤と収益力の拡充による中長期的な企業価値の向上のため、施設の新設や既存施設のリニューアルを中心とした戦略投資を実施しております。

当連結会計年度末現在における当社グループ連結総資産額に占める有利子負債残高の割合は48.9%の水準であります。今後においても継続的な既存施設の改装等を計画するほか、新規施設開発等にかかる設備投資を検討しており、これらに伴う借入金等が増加した場合、当社グループの財政状態が変動する可能性があります。

(14) 固定資産の減損について

当社グループは、ホテルや遊園地等を事業展開する特性上、土地、建物および設備等の多くの不動産を固定資産として保有しております。当社グループが保有している当該資産については、「固定資産の減損に係る会計基準」および「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」の適用により、今後各営業施設の収益低迷や時価が下落する状況に陥った場合には減損処理が必要となる可能性があり、その場合には当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

### 3【経営者による財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社および連結子会社）の財政状態、経営成績およびキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

##### 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益の改善が見られ、堅調な雇用・所得情勢を背景に個人消費は底堅く推移し、緩やかな回復基調が続きました。一方、人手不足やそれに伴う労務コストの上昇、米国の政策動向および東アジア地域の地政学的リスクによる世界経済の不確実性などにより、先行きの不透明な状況が続いております。

ホテル業界におきましては、新規ホテルの開業や民泊の広がりなどによって競争環境が激化しているものの、政府の観光立国推進に向けた政策を背景に訪日外国人旅行者数が2017年では2,869万人に達して過去最高を更新するなど、宿泊マーケットは堅調に推移いたしました。

このような経営環境の下、当社グループは、第2次中期経営計画に基づき、既存事業の長期持続的な成長と事業基盤の拡大のための取り組みを進めております。当連結会計年度において、平成29年5月に札幌ビューホテル大通公園を開業したほか、浅草ビューホテルの1階ロビーフロアの全面改装工事や機械設備の更新工事を実施し、更に平成30年5月に新規オープンした大阪ビューホテル本町の開業準備を進めるなど、長期持続的な成長サイクルの構築を図るための施策に取り組んでまいりました。なお、高崎ビューホテルは平成30年1月5日付で株式会社グランビューに営業譲渡いたしました。

この結果、当連結会計年度の財政状態および経営成績は以下のとおりとなりました。

##### a. 財政状態

当連結会計年度末の資産合計は、31,046百万円（前連結会計年度末23,135百万円）と、7,911百万円増加いたしました。

当連結会計年度末の負債合計は、18,393百万円（前連結会計年度末10,559百万円）と、7,834百万円増加いたしました。

当連結会計年度末の純資産合計は、12,652百万円（前連結会計年度末12,575百万円）と、76百万円増加いたしました。

##### b. 経営成績

当連結会計年度の経営成績は、売上高21,294百万円（前連結会計年度比5.5%増）、営業利益617百万円（同54.7%減）、経常利益601百万円（同53.9%減）、親会社株主に帰属する当期純利益297百万円（前連結会計年度は親会社株主に帰属する当期純損失1,554百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

ホテル事業は、売上高は18,365百万円（前連結会計年度比7.3%増）、営業利益は602百万円（同55.7%減）となりました。

施設運営事業は、売上高は1,768百万円（前連結会計年度比0.3%減）、営業利益は21百万円（同5.7%減）となりました。

遊園地事業は、売上高は1,256百万円（前連結会計年度比8.9%減）、営業損失は17百万円（前連結会計年度は営業損失32百万円）となりました。

##### キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は2,749百万円（前連結会計年度末3,221百万円）となり、472百万円減少いたしました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、1,388百万円（前連結会計年度比595百万円減）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益の347百万円および現金支出を伴わない減価償却費1,576百万円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、4,516百万円(前連結会計年度比1,581百万円増)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出4,286百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、2,655百万円(前連結会計年度比2,054百万円増)となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出948百万円があったものの、長期借入れによる収入4,500百万円があったことによるものであります。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

該当事項はありません。

b. 受注実績

該当事項はありません。

c. 販売実績

前連結会計年度および当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	前連結会計年度 (自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)		当連結会計年度 (自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)	
	販売実績 (百万円)	前年同期比 (%)	販売実績 (百万円)	前年同期比 (%)
ホテル事業	17,116	103.2	18,365	107.3
婚礼・宴会	7,113	98.9	6,914	97.2
客室	4,928	111.8	6,092	123.6
レストラン他	5,074	101.6	5,358	105.6
施設運営事業	1,773	92.4	1,768	99.7
遊園地事業	1,379	105.6	1,256	91.1
合計	20,269	102.3	21,390	105.5

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
2. 上記の金額は、事業セグメント間取引消去前の金額であります。

前連結会計年度および当連結会計年度における主要な事業所の販売実績は次のとおりであります。

[浅草ビューホテル]

事業部門	前連結会計年度 (自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)		当連結会計年度 (自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)	
	販売実績 (百万円)	前年同期比 (%)	販売実績 (百万円)	前年同期比 (%)
婚礼・宴会	3,790	103.8	3,559	93.9
客室	2,149	104.1	2,102	97.8
レストラン他	2,160	101.5	1,991	92.2
合計	8,100	103.2	7,652	94.5

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
2. 上記の金額は、事業セグメント間取引消去前の金額であります。

## (2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識および分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

## 重要な会計方針および見積り

当社グループの連結財務諸表は、一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。連結財務諸表の作成にあたっては、過去の実績や取引状況等を勘案し、会計基準の範囲内かつ合理的と考えられる見積りおよび判断を行っている部分があり、その結果を資産・負債および収益・費用の数値に反映しておりますが、実際の結果は見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

## 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び検討内容

## a. 経営成績等

## 1) 財政状態

## (資産合計)

当連結会計年度末における資産の合計は、31,046百万円（前連結会計年度末23,135百万円）と、7,911百万円増加いたしました。

うち流動資産は、5,242百万円（同5,005百万円）と、236百万円増加いたしました。これは、主に売掛金並びに未収法人税等および未収消費税の増加によるものであります。

固定資産は、25,803百万円（同18,129百万円）と、7,674百万円増加いたしました。これは、主に浅草ビューホテルの1階改装工事による建物等の増加並びに札幌ビューホテル大通公園の賃貸借契約によるリース資産の増加および客室改装工事による建物等の増加によるものであります。

## (負債合計)

当連結会計年度末における負債の合計は、18,393百万円（前連結会計年度末10,559百万円）と、7,834百万円増加いたしました。

うち流動負債は、5,229百万円（同4,386百万円）と、842百万円増加いたしました。これは、主に未払法人税等の減少があったものの1年以内返済予定の借入金の増加によるものであります。

固定負債は、13,164百万円（同6,173百万円）と、6,991百万円増加いたしました。これは、主に札幌ビューホテル大通公園の賃貸借契約によるリース債務の増加および長期借入金の増加によるものであります。

## (純資産合計)

当連結会計年度末における純資産の合計は、12,652百万円（前連結会計年度末12,575百万円）と、76百万円増加いたしました。これは、主に剰余金の配当の支払いおよび自己株式の取得によって減少があったものの、親会社株主に帰属する当期純利益の計上により利益剰余金が増加したことによるものであります。この結果、自己資本比率は、40.8%（前連結会計年度末比13.6ポイント減）となりました。

## 2) 経営成績

当連結会計年度の経営成績は、売上高は21,294百万円（前連結会計年度比5.5%増）、営業利益はホテルの開業費用や大規模な設備投資費用の計上および人件費の増加などにより、617百万円（同54.7%減）、経常利益は原発事故による逸失利益の補償金56百万円を営業外収益に計上したことなどにより、601百万円（同53.9%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は設備投資に係る固定資産除却損281百万円を特別損失に計上したことや、今後の業績予想等を勘案して、当連結会計年度において繰延税金資産を見直したことにより、法人税等調整額28百万円を計上し、297百万円（前連結会計年度は親会社株主に帰属する当期純損失1,554百万円）となりました。

## 3) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

b. 経営成績等の状況に関する認識および分析・検討内容

経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「第一部 企業情報 第2 事業の状況 2事業等のリスク」に記載しております。

c. 資本の財源および資金の流動性

資本の財源および資金の流動性につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

d. 経営方針、経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

経営方針、経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等につきましては、「第一部 企業情報 第2 事業の状況 1経営方針、経営環境および対処すべき課題」に記載しております。

e. セグメントごとの財政状態および経営成績の状況に関する認識および分析・検討内容

(ホテル事業)

ホテル事業では、平成29年5月に開業した札幌ビューホテル大通公園が客室部門を中心に売上に貢献し、更なる収益性向上のため、レストランの集約と新設および客室61室の増室を行いました。旗艦ホテルの浅草ビューホテルでは、平成29年7月30日から平成29年11月末までの一部レストランの休業や平成29年8月20日から平成29年9月10日までの全館クローズ期間を設け、1階ロビーフロアの全面改装工事や受変電設備の更新工事などを実施し、レストラン、ラウンジ、フロントなどを一新したロビーフロアを平成29年12月1日に全面リニューアルオープンいたしました。

営業部門別の状況としては、客室部門では、引き続き拡大傾向にある訪日外国人旅行者マーケットへの対応としてインターネットによる集客に注力した他、需要動向予測に基づく料金プランの設定により1室当たりの売上高の最大化を図り、業績は概ね順調に推移いたしました。婚礼・宴会部門では、宴会は堅調に推移いたしました。婚礼においては期の後半以降で集客の伸びが急激に鈍化し、前連結会計年度に比べ減収となりました。レストラン他部門では、札幌ビューホテル大通公園の開業や浅草ビューホテルのレストランリニューアルなどがありましたが、改装工事に伴う集客への影響などもあり、売上高はわずかな伸びに留まりました。

これらの結果、売上高は18,365百万円（前連結会計年度比7.3%増）、営業利益は602百万円（同55.7%減）となりました。

ホテル事業の主要な指標は以下のとおりであります。

[ホテル施設概要]

平成30年4月30日現在

	総客室数 (室)	宴会場数 (室)	宴会場面積 (㎡)	結婚式場数 (ヶ所)	料飲施設数 (ヶ所)
浅草ビューホテル	326	12	2,801	2	8
成田ビューホテル	489	20	2,532	3	6
秋田ビューホテル	187	8	2,070	2	4
伊良湖ビューホテル	147	6	729	1	4
高崎ビューホテル	-	-	-	-	-
両国ビューホテル	150	4	304	-	2
札幌ビューホテル大通公園	347	5	1,294	-	2
ホテルビューパレス	42	-	-	-	2

料飲施設数には、レストラン、バー、ラウンジ、パティスリーの店舗数を記載しております。

総客室数、宴会場数、結婚式場数および料飲施設数には、改装工事中のものも含まれております。

高崎ビューホテルは、平成30年1月5日付で営業譲渡いたしました。

[収容実績]

	平成29年4月期(人)	平成30年4月期(人)	前年同期比(%)
《ホテル事業》			
婚礼・宴会	694,477	743,925	107.1
客室	787,242	958,099	121.7
レストラン他	1,596,712	1,641,891	102.8
(主要な事業所)			
浅草ビューホテル			
婚礼・宴会	263,708	251,348	95.3
客室	226,208	221,216	97.8
レストラン他	592,781	518,273	87.4

[平均利用単価]

	平成29年4月期(円)	平成30年4月期(円)	前年同期比(%)
《ホテル事業》			
婚礼・宴会	10,243	9,295	90.7
客室	6,261	6,359	101.6
(主要な事業所)			
浅草ビューホテル			
婚礼・宴会	14,375	14,160	98.5
客室	9,502	9,505	100.0

平均利用単価は、収容実績(人数)の合計により算出した1人当たりの単価であります。

[客室稼働率]

	平成29年4月期(%)	平成30年4月期(%)	前年同期比(%)
《ホテル事業》	85.5	86.2	100.9
(主要な事業所)			
浅草ビューホテル	87.9	84.6	96.3

客室稼働率(%) = 稼働客室数 ÷ 総客室数 × 100

客室稼働率は、改装工事等により販売が不可能であった客室も含めた総客室数を分母として算出しております。

(施設運営事業)

施設運営事業では、「ぎょうけい館」を中心に、インターネットでの宿泊プランの充実を図ったことや、平成29年6月の1ヶ月間を全館クローズして行った「ホテルグリーンパール那須」の改装による集客効果などにより、客室部門が堅調に推移いたしました。また、一部レストランの営業時間の見直しを行うなど業務の効率化を図りましたが、販売費等の一部経費が増加いたしました。

これらの結果、売上高は1,768百万円(前連結会計年度比0.3%減)、営業利益は21百万円(同5.7%減)となりました。

[収容実績および客室稼働率]

	平成29年4月期	平成30年4月期	前年同期比(%)
収容実績(人)	71,162	71,026	99.8
客室稼働率(%)	81.0	81.6	100.7

客室収容実績および客室稼働率は、ぎょうけい館、ホテルグリーンパール那須、ホテルプラザ菜の花およびおくたま路の合計です。

客室稼働率(%) = 稼働客室数 ÷ 総客室数 × 100

客室稼働率は、改装工事等により販売が不可能であった客室も含めた総客室数を分母として算出しております。

(遊園地事業)

那須りんどう湖 LAKE VIEWでは、平成29年7月から秋にかけての天候不順や平成29年10月から平成30年3月にかけて行った浚渫工事による湖の水抜き作業の影響が大きく、集客に苦戦いたしました。前連結会計年度の平成28年7月にオープンした「那須の恵み Me k k e (めっけ)! プッフエ&マルシェ」も天候不順が集客に大きく影響いたしました。そういった状況の中で、一部施設の営業時間を見直すなど業務の効率化と経費低減を図るとともに、平成30年4月から新アトラクションを導入し、新たな広告・PR手法も取り入れ、集客強化に努めております。

これらの結果、売上高は1,256百万円(前連結会計年度比8.9%減)、営業損失は17百万円(前連結会計年度は営業損失32百万円)となりました。

[収容実績]

	平成29年4月期(人)	平成30年4月期(人)	前年同期比(%)
収容実績	394,429	339,189	86.0

収容実績は、那須りんどう湖 LAKE VIEWの遊園地入場者数を記載しております。

なお、セグメント別の売上高、営業利益、減価償却前営業利益は、下表のとおりであります。

セグメントの 名称	売上高			セグメント利益又は損失 (営業利益又は損失)			減価償却前営業利益(*)		
	前連結 会計年度 (百万円)	当連結 会計年度 (百万円)	前年同期 比増減額 (百万円)	前連結 会計年度 (百万円)	当連結 会計年度 (百万円)	前年同期 比増減額 (百万円)	前連結 会計年度 (百万円)	当連結 会計年度 (百万円)	前年同期 比増減額 (百万円)
ホテル事業	17,116	18,365	1,249	1,361	602	758	2,365	2,051	313
施設運営事業	1,773	1,768	4	22	21	1	46	44	1
遊園地事業	1,379	1,256	123	32	17	15	73	87	13
合計	20,269	21,390	1,120	1,351	607	744	2,485	2,183	301
調整額	90	95	5	10	10	0	10	10	0
連結数値	20,179	21,294	1,114	1,362	617	745	2,495	2,193	302

(\*) 減価償却前営業利益 = 営業利益又は損失 + 減価償却費

#### 4【経営上の重要な契約等】

##### (1) 賃借関係

契約会社名	契約先 (契約者数)	契約締結日	契約内容	契約期間
日本ビューホテル株式会社(当社)	甲 土地共有者 (13) 乙 当社および株式会社秋田中央ビルディング他 (46) 丙 株式会社秋田中央ビルディング	昭和59年 3月12日	賃借権設定契約 (甲が所有する土地の上に、乙が建物を所有するため賃借権を設定し、丙に徴収および支払の事務を委託)	昭和58年3月26日から 60年間
日本ビューホテル株式会社(当社)	甲 秋田振興株式会社 乙 当社および株式会社秋田中央ビルディング他 (46) 丙 株式会社秋田中央ビルディング	昭和59年 4月3日	賃借権設定契約 (甲が所有する土地の上に、乙が建物を所有するため賃借権を設定し、丙に徴収および支払の事務を委託)	昭和58年3月26日から 60年間
日本ビューホテル株式会社(当社)	株式会社パイオニア	平成27年 7月30日	転貸借契約(建物)	平成27年11月1日から 平成42年10月31日まで
日本ビューホテル株式会社(当社)	朝日生命保険相互会社	平成28年 1月29日	賃貸借契約(建物)	平成29年5月1日から 平成44年4月30日まで
日本ビューホテル株式会社(当社)	合同会社信和	平成28年 7月1日	賃貸借契約(建物)	平成30年3月15日から 平成50年3月14日まで

##### (2) 業務提携契約

契約会社名	相手方の名称	契約締結日	契約内容	契約期間
日本ビューホテル株式会社(当社)	ヒューリック株式会社	平成27年 10月28日	・ 営業協力、新規開発プロジェクトの情報共有、参画、改修工事等に関するアドバイス、遊休不動産の開発事業、人材交流 ・ 業務提携のシナジーの実現に向けて、両社より抜粋した業務提携に関するプロジェクトチームを組成し、定期的に協議する。	平成27年10月28日から 平成30年10月27日まで

#### 5【研究開発活動】

該当事項はありません。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループは、顧客満足度の向上を図ることによりこれからの成長基盤を構築するため、既存ホテルにおけるリニューアルを中心とした施策を実施しております。

当連結会計年度中に実施いたしました設備投資の総額は、4,271百万円であります。

その主なものは、既存施設の改装に伴うものであります。なお、当連結会計年度における事業所の状況は、次のとおりであります。

・ホテル事業

浅草ビューホテルでは、1階のロビー・レストラン・ラウンジの改装工事および受変電設備工事を行いました。

札幌ビューホテルでは、2階～4階の客室改装工事・1階ビュッフェレストランの改装工事とホテル棟リースを行いました。

当連結会計年度の主な設備投資の実績

(単位：百万円)

セグメント	事業所名 又は 施設名	竣工年月	項目	投資額
ホテル事業	浅草 ビューホテル	平成29年8月	1階改装・ファーストロビー工事	250
		平成29年9月	受変電設備	737
		平成29年10月	1階改装・セカンドロビー工事	181
		平成29年10月	1階改装・ラウンジ工事	180
		平成29年11月	1階改装・レストラン他工事	378
	札幌 ビューホテル	平成29年8月	ビュッフェレストラン改装工事	209
		平成29年10月	2 - 4階客室改装工事	808
その他				1,528
当連結会計年度設備投資合計				4,306

(注) 上記以外にリースによる設備投資があり、総額は5,035百万円(主なものは札幌事業所のホテル棟のリース4,967百万円)であります。

## 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

### (1) 提出会社

平成30年4月30日現在

事業所名又は施設名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	工具、器具 及び備品	リース資産	合計	
浅草ビューホテル (東京都台東区)	ホテル事業	ホテル設備	7,296	73	3,893 〔6,460〕	161	6	11,431	278 (223)
成田ビューホテル (千葉県成田市)	ホテル事業	ホテル設備	2,003	63	544 〔55,566〕	50	7	2,670	132 (84)
秋田ビューホテル (秋田県秋田市) (注)2	ホテル事業	ホテル設備	370	11	- 〔5,406.63〕	5	-	302	118 (77)
伊良湖ビューホテル (愛知県田原市)	ホテル事業	ホテル設備	1,231	34	65 〔82,213〕	21	35	1,388	77 (66)
両国ビューホテル (東京都墨田区) (注)3	ホテル事業	ホテル設備	233 〔6,628.21〕	1	- 〔-〕	42	3	212	26 (14)
札幌ビューホテル大 通公園 (北海道札幌市) (注)3	ホテル事業	ホテル設備	921 〔28,845.69〕	18	- 〔-〕	80	4,647	5,159	67 (158)
大阪ビューホテル本 町 (大阪府大阪市) (注)3	ホテル事業	ホテル設備	- 〔6,645.14〕	-	- 〔-〕	0	0	0	9 (-)

(注)1. 従業員数の( )は、臨時雇用者数を外書きしております。

2. 土地を賃借しております。賃借している土地の面積については〔 〕で外書きしております。

3. 建物を賃借しております。賃借している建物の面積については〔 〕で外書きしております。

### (2) 国内子会社

平成30年4月30日現在

会社名	事業所名 又は 施設名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	工具、器具 及び備品	その他	合計	
日本ビューホ テル事業(株)	本社 (東京都台東区)	施設運営 事業	ホテル設備	136	6	117 (19,843)	6	9	275	91 (161)
那須興業(株)	那須りんどう湖 LAKE VIEW (栃木県那須郡 那須町)	遊園地事業	遊園地設備	770	53	636 (204,563)	121	20	1,599	65 (84)
那須興業(株)	ホテルビュー パレス (栃木県那須郡 那須町)	ホテル事業	ホテル設備	120	1	353 (54,368)	3	5	479	21 (17)

(注)1. 帳簿価額のうち「その他」は、リース資産・家畜および一括償却資産であります。

なお、金額には消費税等を含めておりません。

2. 従業員数の( )は、臨時雇用者数を外書きしております。

### 3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資計画については、景気予測、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。設備投資計画は、当社事業統括部を主管部署とし各事業所と検討の上策定し、事業計画に盛り込んで取締役会で決定されます。

なお、当連結会計年度末現在の重要な設備の新設、改装計画は次のとおりであります。

#### (1) 重要な設備の新設

会社名	事業所名又は施設名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び 完了予定年月		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
日本ビュー ホテル(株)	大阪ビューホテル 本町 (大阪府大阪市)	ホテル 事業	客室および レストランの新 設	486	379	自己資金 および借 入金	平成29年 10月	平成30年 5月	集客力の向 上

#### (2) 重要な改修

会社名	事業所名又は施設名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び 完了予定年月		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
日本ビュー ホテル(株)	浅草ビューホテル (東京都台東区)	ホテル 事業	エレベーター4基	170	-	自己資金 および借 入金	平成30年 9月	平成31年 3月	ホテル環境 の価値向上
			高層階レストラン・小宴会場空調機設置	286	-	自己資金 および借 入金	平成30年 10月	平成30年 11月	ホテル環境 の価値向上
			エスカレーターリニューアル4台	187	-	自己資金 および借 入金	平成31年 10月	平成31年 11月	ホテル環境 の価値向上
			自動制御設備(インバーター・制御機器更新)	126	-	自己資金 および借 入金	平成32年 10月	平成32年 11月	ホテル環境 の価値向上
			全館動力設備工事	378	-	自己資金 および借 入金	平成30年 10月	平成30年 11月	ホテル環境 の価値向上
			空調機及び空調配管工事	248	-	自己資金 および借 入金	平成32年 10月	平成32年 11月	ホテル環境 の価値向上
日本ビュー ホテル(株)	成田ビューホテル (千葉県成田市)	ホテル 事業	エレベーター3基	111	-	自己資金 および借 入金	平成30年 8月	平成30年 10月	ホテル環境 の価値向上
			4-5階客室改装工事	222	-	自己資金 および借 入金	平成32年 2月	平成32年 3月	集客力の向 上
日本ビュー ホテル(株)	秋田ビューホテル (秋田県秋田市)	ホテル 事業	宴会場 パーティション工 事	150	-	自己資金 および借 入金	平成31年 2月	平成31年 3月	ホテル環境 の価値向上

会社名	事業所名又は施設名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び 完了予定年月		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
日本ビュー ホテル(株)	札幌ビューホテル 大通公園 (北海道札幌市)	ホテル 事業	宴会場 パーティ ション工 事	100	-	自己資金 および借 入金	平成31年 10月	平成31年 12月	ホテル環境 の価値向上
			地下2階 宴会場天 井照明工 事	250	-	自己資金 および借 入金	平成32年 10月	平成32年 11月	ホテル環境 の価値向上

## (3) 重要な設備の除却

重要な設備の除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	37,000,000
計	37,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成30年4月30日)	提出日現在発行数(株) (平成30年7月27日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	9,724,425	9,726,425	東京証券取引所 (市場第一部)	(注)1
計	9,724,425	9,726,425	-	-

- (注) 1. 1単元の株式数は、100株であります。完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。
2. 「提出日現在発行数」欄には、平成30年7月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

平成22年10月29日臨時株主総会決議

区分	事業年度末現在 (平成30年4月30日)	提出日の前月末現在 (平成30年6月30日)
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 7 当社使用人 31 当社子会社取締役 5 当社子会社使用人 4	同左
新株予約権の数(個)	640,000	630,000
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	128,000 (注)1、3	126,000 (注)1、3
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1,000 (注)3	1,000 (注)3
新株予約権の行使期間	自 平成25年8月30日 至 平成32年10月29日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,000 資本組入額 500 (注)3	発行価格 1,000 資本組入額 500 (注)3
新株予約権の行使の条件	新株予約権の割当を受けた者が当会社又は当会社子会社の取締役、執行役員又は使用人である場合には、権利行使時においても、当会社又は当会社子会社等の取締役、監査役、執行役員又は使用人の地位にあることを要する。 ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由がある場合で、当会社取締役会が特に認めて対象者に書面で通知したとき又は相続が発生した時は、引き続き新株予約権を行使することができる。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当会社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)2	同左

(注)1. 当会社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとする。但し、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点では権利行使又は消滅していない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果1株未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後の株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、発行日以降、当会社が合併又は会社分割を行う場合等、割当株式数の調整を必要とする事由が生じたときは、合併又は会社分割の条件等を勘案の上、必要かつ合理的な範囲で、目的たる株式の数の調整を行うことができる。

2. 当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転（当社が完全子会社となる場合に限る。以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存する新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

ア 交付する再編対象会社の新株予約権の数

組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

イ 新株予約権の目的である再編対象会社の数式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

ウ 新株予約権の目的である再編対象会社の数式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、上記（注）1に準じて決定する。

エ 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案の上調整した再編後の行使価額に新株予約権の目的である株式の数を乗じて得られるものとする。

オ 新株予約権を行使することができる期間

新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のいずれか遅い日から、新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

カ 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記記載の資本金等増加限度額から上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

キ 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の承認を要するものとする。

ク 再編対象会社による新株予約権の取得

新株予約権者が権利行使をする前に、行使条件に該当しなくなったため新株予約権を行使できない場合は、取締役会が別途定める日に新株予約権を無償で取得することができる。

新株予約権者が新株予約権割当契約書の条項に違反した場合、取締役会が別途定める日に無償で新株予約権を取得することができる。

以下の議案につき再編対象会社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、再編対象会社の取締役会決議がなされた場合）又は、新株予約権発行当時再編対象会社の過半数の議決権を保有していた株主の議決権比率が新規株式公開によらずに過半数を下回ることとなった場合（株式譲渡、新株発行、自己株式の処分、その他理由の如何を問わない）は、その後いつでも取締役会が別途定める日に、新株予約権を無償で取得することができる。

(1) 再編対象会社が消滅会社となる合併契約承認の議案

(2) 再編対象会社が分割会社となる会社分割契約又は会社分割計画承認の議案

(3) 再編対象会社が完全子会社となる株式交換契約又は株式移転計画承認の議案

その他の条件は、取締役会決議に基づき、再編対象会社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。

3. 平成24年7月25日開催の「第64回定時株主総会」において、平成24年8月10日付で5株を1株とする株式併合を行っております。これにより、「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」および「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

( 3 ) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】  
該当事項はありません。

( 4 ) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減 額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成26年7月22日 (注)1	125,000	9,556,425	127	2,707	127	1,617
平成26年5月1日～ 平成27年4月30日 (注)2	88,000	9,644,425	44	2,751	44	1,661
平成27年5月1日～ 平成28年4月30日 (注)2	30,000	9,674,425	15	2,766	15	1,676
平成28年5月1日～ 平成29年4月30日 (注)2	6,400	9,680,825	3	2,769	3	1,679
平成29年5月1日～ 平成30年4月30日 (注)2	43,600	9,724,425	22	2,791	22	1,711

(注)1. 有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)

発行価格 2,200円  
引受価額 2,046円  
資本組入額 1,023円  
払込金総額 255百万円

2. 新株予約権の行使による増加であります。

3. 平成30年5月1日から平成30年6月30日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が2,000株、資本金及び資本準備金がそれぞれ1百万円増加しております。

## (5) 【所有者別状況】

平成30年4月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数 100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	24	13	140	44	17	8,974	9,212	-
所有株式数(単元)	-	11,276	1,889	42,601	7,429	30	33,993	97,218	2,625
所有株式数の割合(%)	-	11.598	1.943	43.820	7.641	0.030	34.965	100.00	-

(注) 自己株式297,600株は、「個人その他」に2,976単元を含めて記載しております。

## (6) 【大株主の状況】

平成30年4月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
ビューリック株式会社	東京都中央区日本橋大伝馬町7-3	2,528,856	26.83
株式会社立飛ホールディングス	東京都立川市栄町6-1	560,000	5.94
名古屋鉄道株式会社	愛知県名古屋市中村区名駅1-2-4	480,000	5.09
日本ビューホテルグループ社員持株会	東京都台東区西浅草3-17-1	219,484	2.33
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	174,000	1.85
CDIB & Partners Investment Holding Pte.Ltd. (常任代理人三田証券株式会社)	8 Wilkie Road #03-01 Wilkie Edge Singapore 228095 (東京都中央区日本橋兜町3-11)	173,000	1.84
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	159,800	1.70
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	東京都中央区晴海1-8-11	142,000	1.51
PHILLIP SECURITIES CLIENTS (RETAIL) (常任代理人フィリップ証券株式会社)	Northbridgeroad 250,Rafflescitytower 6F,Sgr (東京都中央区日本橋兜町4-2)	138,000	1.46
サントリー酒類株式会社	東京都港区台場2-3-3	120,000	1.27
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町2-2-1	120,000	1.27
計	-	4,815,140	51.08

(注) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口、信託口4)および日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数は、すべて信託業務に係わるものであります。

(7)【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成30年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 297,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,424,200	94,242	-
単元未満株式	普通株式 2,625	-	-
発行済株式総数	9,724,425	-	-
総株主の議決権	-	94,242	-

【自己株式等】

平成30年4月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
日本ビューホテル(株)	東京都台東区 西浅草3-17-1	297,600	-	297,600	3.06
計	-	297,600	-	297,600	3.06

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成29年1月12日)での決議状況 (取得期間 平成29年1月13日～平成29年7月31日)	400,000	500,000,000
当事業年度前における取得自己株式	181,200	247,356,100
当事業年度における取得自己株式	116,400	160,714,000
残存決議株式の総数及び価額の総額	102,400	91,929,900
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	25.6	18.3
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	25.6	18.3

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	297,600	-	297,600	-

### 3【配当政策】

当社は、株主尊重の立場から、株主利益を守り継続かつ安定した配当を実施することが経営の重要な要素であると認識しており、将来の事業展開と経営の体質強化のための内部留保を確保しつつ、剰余金の配当を行うことを基本方針としております。連結配当性向につきましては、目標を30%以上として経営に取り組んでおります。内部留保資金の用途につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、今まで以上に競争力を高め、市場ニーズに応える商品・サービス体制を強化し、さらには、事業基盤の拡大を図るために有効投資をしてみたいと考えております。

なお、当社は会社法第459条第1項の規定に基づき、剰余金の配当は、株主総会の決議によらず取締役会の決議によって定めることができる旨を定款に定めております。

また、当社は中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことその他、基準日を定めて剰余金の配当をすることができる旨を定款に定めております。

当期の期末配当につきましては、当期業績並びに今後の業績見通し、財務の状況および配当性向等を総合的に勘案し、1株当たり22円とすることといたしました。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成30年6月8日 取締役会	207	22

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
決算年月	平成26年4月	平成27年4月	平成28年4月	平成29年4月	平成30年4月
最高(円)	-	2,382	2,950	1,655	1,623
最低(円)	-	1,230	1,284	1,200	1,350

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所(市場第一部および第二部)におけるものであります。

なお、平成26年7月23日をもって同取引所に株式を上場(平成27年7月23日に市場第一部に指定替え)いたしましたので、それ以前の株価については該当事項はありません。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年11月	平成29年12月	平成30年1月	平成30年2月	平成30年3月	平成30年4月
最高(円)	1,416	1,415	1,623	1,618	1,595	1,586
最低(円)	1,350	1,365	1,404	1,435	1,460	1,501

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

5【役員の状況】

男性 12名 女性 1名 (役員のうち女性の比率 7.7%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	-	遠藤 由明	昭和34年12月4日生	昭和57年4月 当社入社 平成15年4月 当社営業部長 平成17年8月 当社執行役員 伊良湖ビューホテル総支配人 平成22年7月 当社取締役 平成24年5月 当社取締役 仕入管理室長委嘱 平成25年7月 日本ビューホテル事業株式会社取締役 平成26年8月 当社常務取締役 仕入管理室長委嘱 平成27年3月 当社常務取締役 平成27年5月 当社専務取締役 平成28年7月 当社代表取締役社長(現任)	(注)3	25,000
取締役会長	-	石井 一男	昭和24年3月28日生	昭和46年4月 当社入社 平成14年7月 日本ビューホテル事業株式会社代表取締役社長 平成22年5月 当社常務執行役員 平成22年7月 当社常務取締役 平成24年5月 当社代表取締役専務 平成25年7月 当社代表取締役社長 平成28年7月 当社取締役会長(現任)	(注)3	16,000
常務取締役	-	矢島 学	昭和36年11月17日生	昭和59年4月 当社入社 平成14年8月 当社経理部長 平成19年7月 当社執行役員 経理部長 平成20年7月 当社取締役 経理部長委嘱 平成25年7月 那須興業株式会社取締役 平成26年8月 日本ビューホテル事業株式会社取締役 平成27年3月 当社取締役 平成28年7月 当社常務取締役(現任) 平成30年7月 那須興業株式会社代表取締役(現任)	(注)3	9,170
取締役	-	富永 浩仁	昭和39年8月8日生	昭和63年4月 株式会社富士銀行入行 平成18年3月 株式会社みずほ銀行 証券部付参事役 平成18年3月 みずほキャピタル株式会社 出向 平成25年4月 同行 守口支店長 平成27年4月 同行 グループ人事部付参事役 平成27年10月 当社出向 執行役員 平成28年7月 当社取締役(現任) 平成28年7月 那須興業株式会社取締役(現任) 平成30年7月 日本ビューホテル事業株式会社取締役(現任)	(注)3	425
取締役	総務部長	伊丹 伸治	昭和41年8月27日生	平成元年4月 当社入社 平成25年4月 当社浅草ビューホテル副総支配人 宿泊・営業・料飲担当 平成26年3月 当社 高崎ビューホテル総支配人 平成26年5月 当社執行役員 高崎ビューホテル総支配人 平成28年3月 当社執行役員 仕入管理室長委嘱 平成28年7月 当社取締役 仕入管理室長委嘱 平成29年3月 当社取締役 総務部長委嘱(現任)	(注)3	425

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	-	浅野 良太	昭和42年11月28日生	昭和62年2月 金谷ホテル観光株式会社入社 昭和63年12月 当社入社 平成20年11月 当社本社営業本部本部長 平成22年5月 当社成田ビューホテル総支配人 平成23年5月 当社執行役員 成田ビューホテル 総支配人 平成24年5月 当社執行役員 伊良湖ビューホテ ル総支配人 平成27年3月 当社執行役員 浅草ビューホテル 総支配人 平成27年5月 当社上席執行役員 浅草ビューホ テル総支配人 平成29年3月 当社上席執行役員 平成29年7月 当社取締役 事業統括部長委嘱 平成29年9月 当社取締役(現任)	(注)3	3,870
取締役	-	近嵐 嘉顕	昭和32年1月7日生	昭和63年10月 株式会社M・L・T入社 平成4年8月 当社入社 平成17年4月 当社浅草ビューホテル総料理長 平成20年7月 当社執行役員 浅草ビューホテル 総料理長 平成25年5月 当社執行役員 浅草ビューホテル 総料理長兼全社総料理長 平成29年3月 当社執行役員 全社総料理長 平成29年5月 当社執行役員 全社兼札幌ビュー ホテル総料理長 平成29年7月 当社取締役(現任)	(注)3	3,568
取締役	-	高木 茂	昭和34年4月17日生	平成4年4月 土釜法律事務所入所 平成6年2月 山下法律事務所入所 平成9年6月 山下高木法律事務所開設 平成12年8月 高木法律事務所開設 平成22年1月 銀座法律会計事務所開設(現任) 平成26年5月 当社取締役(現任) (重要な兼職の状況) バイオテック株式会社社外監査役	(注)3	-
取締役	-	西浦 三郎	昭和23年6月10日生	昭和46年4月 株式会社富士銀行入行 平成5年5月 同行 目黒支店長 平成7年5月 同行 数寄屋橋支店長 平成10年6月 同行 取締役法人開発部長 平成11年5月 同行 取締役営業第一部長 平成12年8月 同行 常務執行役員法人グルー プ 長兼法人開発部長 平成14年4月 株式会社みずほ銀行 常務執行役 員 平成16年4月 同行 取締役副頭取 平成18年3月 ヒューリック株式会社 代表取締 役社長 平成28年3月 同社 代表取締役会長(現任) 平成28年7月 当社取締役(現任) (重要な兼職の状況) ヒューリック株式会社 代表取締 役会長 帝国繊維株式会社 社外監査役 株式会社ニチビ 社外監査役 一般社団法人日本経済団体連合 会 常任幹事	(注)3	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	-	須賀 一也	昭和32年2月12日生	昭和55年10月 監査法人サンワ東京丸の内事務所 (現有限責任監査法人トーマツ) 入所 平成4年10月 須賀公認会計士事務所開設 平成12年4月 監査法人ネクステイ 代表社員 (現任) 平成14年7月 当社監査役 平成19年7月 当社監査役退任(任期満了) 平成28年7月 当社取締役(現任) (重要な兼職の状況) 監査法人ネクステイ 代表社員 株式会社さいか屋 社外取締役 事業再生研究機構 理事 日本農業経営大学校 非常勤講師 松尾電器産業株式会社監査役	(注)3	-
常勤監査役	-	岡本 雅弘	昭和37年2月15日生	昭和60年4月 株式会社富士銀行入行 平成15年3月 株式会社みずほ銀行 法務部次長 平成19年11月 同行 業務監査部 監査主任 平成20年4月 同行 いわき支店長 平成22年4月 同行 法務部参事役 平成24年4月 株式会社みずほフィナンシャルグ ループ 法務部副部長 平成24年4月 株式会社みずほ銀行 法務部副部 長 平成24年4月 株式会社みずほコーポレート銀 行 法務部副部長 平成25年10月 株式会社みずほフィナンシャルグ ループ 法務部長 平成25年10月 株式会社みずほ銀行 法務部長 平成28年4月 同行 グローバル人事業務部付参 事役 平成28年7月 当社常勤監査役(現任) 平成28年7月 日本ビューホテル事業株式会社監 査役(現任) 平成28年7月 那須興業株式会社監査役(現任)	(注)4	-
監査役	-	前田 達宏	昭和36年4月21日生	平成元年10月 サンワ・等松青木監査法人(現有 限責任監査法人トーマツ)入社 平成6年8月 公認会計士登録 平成19年1月 前田達宏公認会計士事務所代表 (現任) 平成19年2月 税理士登録 平成27年7月 当社監査役(現任) 平成30年6月 オイレス工業株式会社社外監査役 (現任)	(注)4	-
監査役	-	関 葉子	昭和45年8月30日生	平成7年9月 監査法人トーマツ(現有限責任監 査法人トーマツ)入所 平成14年10月 弁護士登録 馬場・澤田法律事務所 入所 平成18年12月 銀座プライム法律事務所 入所 (現任) 平成26年4月 学校法人国士館 国士館大学教授 (現任) 平成30年7月 当社社外監査役(現任) (重要な兼職の状況) 三井生命保険株式会社社外監査役 イオンリート投資法人監督役員	(注)4	-
計						58,458

- (注) 1. 取締役高木茂氏、西浦三郎氏および須賀一也氏は、社外取締役であります。  
2. 監査役岡本雅弘氏、前田達宏氏および関葉子氏は、社外監査役であります。  
3. 平成30年7月26日開催の定時株主総会終結の時から、平成31年4月期に係る定時株主総会の終結の時まで  
であります。  
4. 平成30年7月26日開催の定時株主総会終結の時から、平成34年4月期に係る定時株主総会の終結の時まで  
であります。  
5. 当社は、法令に定める監査役の数に欠けることになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監

査役 1 名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (株)
森 俊明	昭和41年 4月28日生	昭和62年10月 会計士補登録 昭和63年 4月 サンワ・等松青木監査法人（現有限責任監査法人トーマツ）入社 平成 3年 4月 公認会計士登録 平成 9年 8月 権勲公認会計士事務所入所 平成15年 4月 税理士登録 平成15年 9月 ブリッジ総合会計事務所代表 平成21年11月 B E 1総合会計事務所代表（現任） 平成27年 7月 当社監査役 平成28年 7月 当社補欠監査役（現任） （重要な兼職の状況） 株式会社 B E 1総合会計事務所代表取締役 株式会社ひまわりホールディングス社外監査役 株式会社文教堂ホールディングス社外取締役 大光ビルサービス株式会社監査役	-

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は、経営の透明性とコンプライアンスを徹底し企業価値の向上を図るため、コーポレート・ガバナンスの強化を重要な経営課題と位置付け、その更なる充実に取り組んでおります。そのために、財務の健全性を追求すること、情報開示の体制を構築すること、取締役および監査役がそれぞれ独立性を保ち、業務執行および監査責任を果たすことを経営の最重要方針としております。また、内部統制システムの強化を推進するとともに、コンプライアンス重視の意識の強化やリスク管理の充実についても全社的に推進しております。

#### 企業統治の体制

##### イ．企業統治の体制の概要とその体制を採用する理由

当社は監査役制度を採用しており、3名の社外監査役により監査役会を構成し、監査を実施しております。監査役は、監査役会および取締役会に出席し、経営ならびに取締役の職務の執行の適法性を監査しております。

取締役会は、月次の定例取締役会のほか、必要に応じて開催される臨時取締役会において法令で定められた事項、その他経営上の重要事項の決定と業務の執行状況の監督を行っております。本書提出日現在の取締役は10名で、そのうち3名が社外取締役であります。

当社における重要事項についての経営の意思決定プロセスは、各部門からの起案事項に関し特に重要と思われる事項については経営諮問会議で審議し、取締役会で決定することとしております。

業務の執行に当たっては、毎年度事業計画を策定し、経営目標を明確にするとともに部門ごとの達成度の管理と目標達成のための経営戦略の進捗状況の把握を行っております。

以上の体制を採用することで、当社は、経営の透明性を確保しコンプライアンスが徹底されることにより、企業価値の向上を図っております。

##### ロ．内部統制システム、リスク管理体制およびコンプライアンス体制の整備の状況

内部統制については、取締役会において「内部統制システム構築の基本方針」を決議しております。またこの基本方針に基づき社内規程の整備等を行い適正に運用しております。

また、金融商品取引法に基づく「内部統制報告制度」への対応については、取締役会において「財務報告に係る内部統制システムの整備に関する基本方針」を決議しこの制度に対応しております。また、「財務報告に係る内部統制規程」を定め、この規程に基づき適正に運用しております。

リスク管理体制については、経営を取り巻くリスクに対して適切に対処していくため、リスク管理規程に基づき、代表取締役社長を委員長とするリスク管理委員会を設置し、原則3ヶ月に1回委員会を開催し、当社の経営におけるリスクの把握、分析および対応に関する活動を実施しております。

コンプライアンス体制については、コンプライアンス規程に基づき、総務担当取締役を委員長とするコンプライアンス委員会を設置し、原則3ヶ月に1回委員会を開催し、当社の企業活動における法令遵守体制や反社会的勢力への対応の体制に関する事項等について審議・活動をしております。

##### ハ．責任限定契約の内容の概要

当社は、定款において、業務執行を行わない取締役および監査役との間で責任限定契約を締結できる規定を設けております。なお責任限定契約に基づく責任の限度額は、法令が規定する額としております。

##### ニ．取締役および監査役の責任免除

当社は、平成28年7月28日開催の第68回定時株主総会において定款を変更し、取締役および監査役が、その期待される役割を十分に発揮できるよう、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって、同法第423条第1項の取締役（取締役であった者を含む。）および監査役（監査役であった者を含む。）の賠償責任を、法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。

##### ホ．取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨を定款に定めております。

##### ヘ．取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使できる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

##### ト．監査役の選任の決議要件

当社は、監査役の選任決議について、議決権を行使できる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

チ．剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、取締役会の決議により定めることができる旨を定款に定めております。また、取締役会の決議によって中間配当をすることができる旨定款に定めております。これらは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

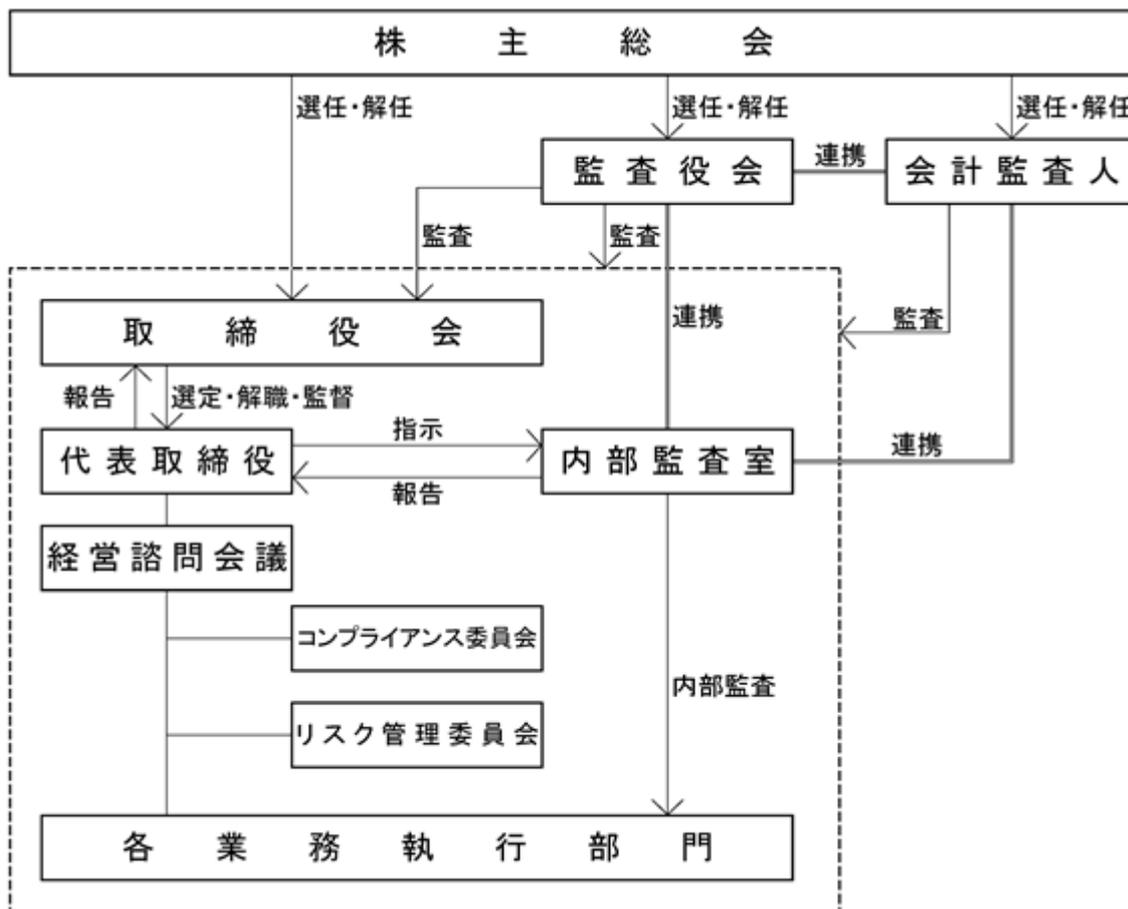
リ．株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会に、より機動性を与えることを目的とするものであります。

ヌ．提出会社の子会社の業務の適正を確保する為の体制整備の状況

当社は、子会社の業務の適正を確保するために「子会社管理規程」に基づき、子会社の経営管理および業績管理にあたるとともに、子会社に取締役および監査役を派遣しております。子会社の経営状態および業務の運営状況については、月次で開催する予算会議等の会議体において報告を受けております。また、当社内部監査室は、子会社の業務の執行状況を監査し、その結果を当社の取締役および監査役に報告しております。

当社の経営組織およびコーポレート・ガバナンス体制は以下のとおりであります。



#### 内部監査および監査役監査の状況

当社の内部監査は、代表取締役社長の直属の組織である内部監査室が実施しております。内部監査室は責任者1名、担当者2名の計3名で構成され、当社および子会社の各組織の監査を実施しております。年度毎に策定する内部監査計画に基づき実施した内部監査の結果は、内部監査報告書により代表取締役社長に報告するとともに、代表取締役社長から改善等の指示がある場合は、被監査部署の責任者に対してその旨を文書で通知します。当該被監査部署の責任者は、必要に応じて改善措置を講じるとともに、内部監査室経由で改善報告書を代表取締役社長に提出することになっております。

当社の監査役会は、社外監査役3名（常勤監査役1名）で構成されております。各監査役は、コーポレート・ガバナンスの重要な役割を担う独立の機関であることを認識し、監査役監査基準に基づき適正に監査を実施しております。原則として月1回の監査役会を開催し、各々の監査役の監査内容について報告し、情報共有を図るとともに、監査役監査に関する事項を決議しております。

監査役と内部監査室は年間の監査計画を相互に聴取するとともに、重要な会議に出席することによって、定期的な情報交換を行っております。監査役と会計監査人は、定期的に会合を持ち、監査上の問題点の有無や今後の課題に関して意見の交換等を行っております。また、期末および四半期ごとに実施される監査講評については、監査役および内部監査室が同席し情報の共有を図っております。

なお、常勤監査役（社外監査役）岡本雅弘氏は、長年の銀行業務経験に基づく専門的な知識により、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。社外監査役の前田達宏氏は、公認会計士・税理士の資格を有し、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。また社外監査役の関葉子氏は、弁護士・公認会計士の資格を有し、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。

#### 会計監査の状況

監査業務を執行した公認会計士の氏名等		所属する監査法人名	継続監査年数が7年を超えている場合の当該年数	監査業務に係る補助者の構成
指定有限責任社員 業務執行社員	甘樂 眞明 江下 聖	EY新日本有限責任監査法人		公認会計士7名 その他6名

（注）新日本有限責任監査法人は平成30年7月1日付をもってEY新日本有限責任監査法人に変更しております

#### 社外取締役および社外監査役

##### イ．社外取締役および社外監査役の員数

当社の社外取締役は3名、社外監査役は3名であります。

##### ロ．社外取締役および社外監査役との人的関係、資本的關係又は取引關係等

社外取締役高木茂氏および須賀一也氏と当社との間には、人的関係、資本的關係、取引關係、その他の利害関係はありません。

社外取締役西浦三郎氏は、大株主であるヒューリック株式会社の代表取締役会長を兼務しており、当社は同社との間で平成27年10月28日に資本・業務提携契約を締結しております。

社外監査役岡本雅弘氏は、当社監査役に就任するまで株式会社みずほ銀行の業務執行に携わっておりました。同行は、当事業年度末時点で当社発行済株式の0.34%を保有し、また当社との間に借入の取引關係がありますが、同行は複数ある主要な借入先の一つであります。当事業年度末における同行からの借入金は借入総額の25.7%であり、当社への出資比率の点からも当社の意思決定に著しい影響を及ぼすものではなく、またその他の利害關係はありません。

社外監査役前田達宏氏と当社との間には、人的關係、資本的關係、取引關係、その他の利害關係はありません。

社外監査役関葉子氏は、当社が顧問契約を結んでいる馬場・澤田法律事務所の使用人でありました。また同氏が社外監査役を務める三井住友生命株式会社は、当社の企業年金の運用委託先の一つとして取引がありますが、その年間取引金額および連結売上高に占める割合は、当社および同社においても僅少であり、当社の意思決定に著しい影響を及ぼすものではなく、またその他の利害關係はありません。

##### ハ．社外取締役又は社外監査役が企業統治において果たす機能および役割

当社は様々な経歴、経験等を有した社外取締役および社外監査役を選任し、独立的な立場から客觀的かつ公正に当社の経営を監督、監査できる体制を確保することで、経営における透明性の向上や経営監視機能の強化につながると考えております。

二．社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針

当社は、選任にあたっては、会社法第2条第15号および第16号における社外取締役および社外監査役の各要件を満たし、人格に優れ、法務、財務・会計、金融等の分野における高い見識や豊富な経験を有する者、または企業経営での高い見識や豊富な経験を有する者の中から独立性の高い社外取締役又は社外監査役を選任しております。

また当社は、社外取締役および社外監査役を独立役員として認定する際には、株式会社東京証券取引所が定める独立役員の独立性に関する判断基準を参考とするとともに、コーポレートガバナンスに関する基本方針において定めた「独立性に関する基準」によって判断し届け出ております。

なお、当社は、社外取締役の高木茂氏、須賀一也氏および社外監査役の前田達宏氏、関葉子氏を株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。

「独立性に関する基準」は、当社ウェブサイトに掲載しております。

<https://www.viewhotels.co.jp/ir/governance.html>

ホ．社外取締役又は社外監査役の選任状況に関する考え方

社外取締役および社外監査役は、出席した取締役会において独立した立場で適宜発言を行うことで企業統治において重要な役割を果たしており、選任状況は適切であります。

ヘ．社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査および会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会において、必要な情報収集を行い、其々の専門分野における豊富な経験と高い見識から適宜質問を行い、意見交換を行う等連携を図っております。

社外監査役は、取締役会や監査役会においてその専門的見地からの報告や発言を適宜行っており、監査役監査においてはその独立性、中立性、専門性を十分に発揮し、監査を実施するとともに、内部監査室、他の監査役および会計監査人と連携を図り情報収集や意見交換を行っております。

役員報酬の内容

イ．提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる員数

役員区分	報酬等の総額（百万円）	報酬等の種類別の総額（百万円）	
		基本報酬	対象となる役員 の員数（人）
取締役 （社外取締役を除く）	103	103	8
監査役 （社外監査役を除く）	3	3	1
社外取締役	9	9	3
社外監査役	13	13	2

ロ．使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの  
該当事項はありません。

ハ．役員報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針の内容および決定方法

当社は、株主総会において取締役および監査役の報酬について総枠の決議を得ております。取締役報酬については、職責の重みを考慮して決められた基本報酬（固定報酬）と、会社業績や業績への貢献度をもとに決定される業績連動報酬で構成しております。

取締役の報酬の決定にあたっては、株主総会で決議された額の範囲内で、過半数を社外取締役で構成した報酬委員会の審議を経て、決定しております。

監査役の報酬の決定にあたっては、株主総会で決議された額の範囲内で、監査役の協議により決定しております。

社外取締役・監査役の報酬については、その役割・職責に鑑み、基本報酬（固定報酬）のみとしております。

株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数および貸借対照表計上額の合計額  
10銘柄 45百万円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額および保有目的  
前事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額 （百万円）	保有目的
芙蓉総合リース株式会社	5,600	29	取引関係強化のため
フィデアホールディングス(株)	3,000	0	取引関係強化のため
KNT-CTホールディングス(株)	1,000	0	取引関係強化のため

(注) 貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ではありますが、全ての上場株式について記載しております。

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額 （百万円）	保有目的
芙蓉総合リース株式会社	5,600	41	取引関係強化のため
フィデアホールディングス(株)	3,000	0	取引関係強化のため
KNT-CTホールディングス(株)	100	0	取引関係強化のため

(注) 1．貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ではありますが、全ての上場株式について記載しております。

2．KNT-CTホールディングス(株)は、平成29年10月2日付で、普通株式10株につき1株の割合で株式併合しております。

ハ．保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

( 2 ) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	29	-	30	-
連結子会社	-	-	-	-
計	29	-	30	-

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、会計監査人より提示される監査計画の内容をもとに、監査日数、当社の規模、業務の特性等を勘案・協議し、監査役会の同意を得て決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という）に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成29年5月1日から平成30年4月30日まで）の連結財務諸表および事業年度（平成29年5月1日から平成30年4月30日まで）の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

なお、新日本有限責任監査法人は平成30年7月1日付をもって、名称をEY新日本有限責任監査法人に変更しております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、当社の会計監査人であるEY新日本有限責任監査法人および株式会社プロネクサス等の主催する各種セミナーに参加しております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,221	2,749
売掛金	854	977
貯蔵品	201	207
繰延税金資産	200	161
未収還付法人税等	5	157
その他	522	989
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	5,005	5,242
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,410,123	2,13,079
機械装置及び運搬具(純額)	227	266
工具、器具及び備品(純額)	2,443	2,495
土地	2,561	2,561
建設仮勘定	392	396
リース資産(純額)	80	4,735
その他(純額)	0	0
有形固定資産合計	3,16,870	3,24,585
無形固定資産	44	46
投資その他の資産		
投資有価証券	143	156
長期貸付金	94	94
繰延税金資産	271	232
その他	902	889
貸倒引当金	97	101
投資その他の資産合計	1,214	1,171
固定資産合計	18,129	25,803
資産合計	23,135	31,046

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	985	904
1年内償還予定の社債	2 165	2 165
1年内返済予定の長期借入金	2 948	2 1,922
リース債務	48	326
未払金	2 1,204	2 1,244
未払法人税等	294	2
未払消費税等	160	58
賞与引当金	285	326
ポイント引当金	30	3
その他	263	274
<b>流動負債合計</b>	<b>4,386</b>	<b>5,229</b>
<b>固定負債</b>		
社債	2 253	2 88
長期借入金	2 5,055	2 7,632
リース債務	70	4,879
退職給付に係る負債	435	224
資産除去債務	47	43
長期末払金	2 171	2 164
その他	140	131
<b>固定負債合計</b>	<b>6,173</b>	<b>13,164</b>
<b>負債合計</b>	<b>10,559</b>	<b>18,393</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	2,769	2,791
資本剰余金	1,689	1,711
利益剰余金	8,269	8,357
自己株式	247	408
<b>株主資本合計</b>	<b>12,481</b>	<b>12,452</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	3	12
退職給付に係る調整累計額	90	191
繰延ヘッジ損益	-	3
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>94</b>	<b>200</b>
<b>純資産合計</b>	<b>12,575</b>	<b>12,652</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>23,135</b>	<b>31,046</b>

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)
売上高	20,179	21,294
売上原価	5,035	5,014
売上総利益	15,143	16,280
販売費及び一般管理費	1 13,781	1 15,662
営業利益	1,362	617
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	0	0
受取賃貸料	18	17
受取補償金	47	56
その他	80	83
営業外収益合計	148	160
営業外費用		
支払利息	78	145
資金調達費用	53	-
株式公開費用	0	-
支払手数料	49	3
その他	23	27
営業外費用合計	206	176
経常利益	1,304	601
特別利益		
固定資産売却益	2 0	2 23
投資有価証券売却益	3	3
特別利益合計	3	27
特別損失		
固定資産売却損	-	3 0
固定資産除却損	4 90	4 281
減損損失	5 2,551	-
訴訟和解金	31	-
特別損失合計	2,672	282
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	1,363	347
法人税、住民税及び事業税	394	22
法人税等調整額	203	28
法人税等合計	190	50
当期純利益又は当期純損失( )	1,554	297
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失( )	1,554	297

## 【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
当期純利益又は当期純損失 ( )	1,554	297
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	8
退職給付に係る調整額	86	101
繰延ヘッジ損益	-	3
その他の包括利益合計	89	106
包括利益	1,465	403
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,465	403

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日）

（単位：百万円）

	株主資本					その他の包括利益累計額				純資産合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価 差額金	退職給付 に係る 調整 累計額	繰延 ヘッジ 損益	その他の 包括利益 累計 額合計	
当期首残高	2,766	1,686	10,085	-	14,538	1	3	-	4	14,543
当期変動額										
新株の発行	3	3			6					6
剰余金の配当			261		261					261
親会社株主に帰属する 当期純損失（ ）			1,554		1,554					1,554
自己株式の取得				247	247					247
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）						2	86	-	89	89
当期変動額合計	3	3	1,815	247	2,056	2	86	-	89	1,967
当期末残高	2,769	1,689	8,269	247	12,481	3	90	-	94	12,575

当連結会計年度（自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日）

（単位：百万円）

	株主資本					その他の包括利益累計額				純資産合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価 差額金	退職給付 に係る 調整 累計額	繰延 ヘッジ 損益	その他の 包括利益 累計 額合計	
当期首残高	2,769	1,689	8,269	247	12,481	3	90	-	94	12,575
当期変動額										
新株の発行	21	21			43					43
剰余金の配当			208		208					208
親会社株主に帰属する 当期純利益			297		297					297
自己株式の取得				160	160					160
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）						8	101	3	106	106
当期変動額合計	21	21	88	160	29	8	101	3	106	76
当期末残高	2,791	1,711	8,357	408	12,452	12	191	3	200	12,652

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	1,363	347
減価償却費	1,133	1,576
貸倒引当金の増減額( は減少)	2	3
受取利息及び受取配当金	2	2
支払利息	78	145
投資有価証券売却損益( は益)	3	3
固定資産除却損	90	281
受取補償金	47	56
減損損失	2,551	-
訴訟和解金	31	-
売上債権の増減額( は増加)	14	122
たな卸資産の増減額( は増加)	9	6
仕入債務の増減額( は減少)	41	80
賞与引当金の増減額( は減少)	44	40
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	35	62
ポイント引当金の増減額( は減少)	4	26
その他	226	93
小計	2,225	1,940
利息及び配当金の受取額	2	2
利息の支払額	80	144
補償金の受取額	47	56
保険金の受取額	112	-
訴訟和解金の支払額	-	31
法人税等の支払額又は還付額( は支払)	324	435
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,983	1,388
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	2,102	4,286
有形固定資産の除却による支出	87	242
投資有価証券の売却による収入	3	3
差入保証金の差入による支出	660	-
その他	88	8
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,934	4,516
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	2,800	4,500
長期借入金の返済による支出	1,389	948
社債の償還による支出	165	165
ストックオプションの行使による収入	6	43
自己株式の取得による支出	247	160
割賦債務の返済による支出	93	69
配当金の支払額	260	208
その他	49	335
財務活動によるキャッシュ・フロー	600	2,655
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	350	472
現金及び現金同等物の期首残高	3,572	3,221
現金及び現金同等物の期末残高	3,221	2,749

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 2社

連結子会社名は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載しているため、省略しております。

なお、ファミリー観光有限会社については、平成30年4月1日付で那須興業株式会社と合併したため、連結の範囲から除いております。

(2) 非連結子会社の名称等

有限会社那須牧場

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、小規模であり、総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)および利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用していない非連結子会社の会社の名称

有限会社那須牧場

持分法を適用しない理由

持分法非適用の非連結子会社は、当期純損益(持分に見合う額)および利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

ロ たな卸資産

貯蔵品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、当社浅草事業所の建物(建物附属設備を除く)および平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については、定額法)を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～60年

機械装置及び運搬具 4～17年

工具、器具及び備品 3～20年

ロ 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアにつきましては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

ハ リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

ロ 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき金額を計上しております。

ハ ポイント引当金

将来のポイントギフトカードの利用による売上値引に備えるため、ポイントギフトカード使用実績率に基づき、翌連結会計年度以降に利用されるポイントギフトカードの見積額を計上しております。

(4) 重要なヘッジ会計の方法

イ ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

ロ ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...金利スワップ

ヘッジ対象...借入金

ハ ヘッジ方針

金利リスクの低減並びに金融収支改善のため、対象債務の範囲内でヘッジを行っております。

ニ ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。

(5) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産を控除した額を計上しております。なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異および会計基準変更時差異の費用処理方法

会計基準変更時差異は、15年による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(9年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

会計基準変更時差異の未処理額および未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 平成30年2月16日改正 企業会計基準委員会)
- ・「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成30年2月16日最終改正 企業会計基準委員会)

(1) 概要

「税効果会計に係る会計基準の適用指針」等は、日本公認会計士協会における税効果会計に関する実務指針を企業会計基準委員会に移管するに際して、基本的にその内容を踏襲した上で、必要と考えられる以下の見直しが行われたものであります。

(会計処理の見直しを行った主な取扱い)

- ・個別財務諸表における子会社株式等に係る将来加算一時差異の取扱い
- ・(分類1)に該当する企業における繰延税金資産の回収可能性に関する取扱い

(2) 適用予定日

平成31年4月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「税効果会計に係る会計基準の適用指針」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会( IASB )及び米国財務会計基準審議会( FASB )は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、平成26年5月に「顧客との契約から生じる収益」( IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606 )を公表しており、IFRS第15号は平成30年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は平成29年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

平成34年4月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり、

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において流動資産の「その他」に含めていた「未収還付法人税等」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度から独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、流動資産の「その他」に表示していた527百万円は、「未収還付法人税等」5百万円、「その他」522百万円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
投資有価証券	0百万円	0百万円

2 担保資産および担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
建物及び構築物	7,861百万円	9,979百万円
工具、器具及び備品	10	6
土地	4,885	4,885
計	12,757	14,872

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
1年内償還予定の社債	165百万円	165百万円
1年内返済予定の長期借入金	948	1,926
未払金	64	53
社債	253	88
長期借入金	5,055	7,628
長期未払金	121	115
計	6,609	9,977

3 有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
有形固定資産の減価償却累計額	33,165百万円	26,230百万円

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
給料及び手当	4,901百万円	5,422百万円
賞与引当金繰入額	285	326
退職給付費用	130	106
減価償却費	1,133	1,576

2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
建物及び構築物	- 百万円	1百万円
機械装置及び運搬具	0	21
計	0	23

3 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
工具、器具及び備品	- 百万円	0百万円
計	-	0

4 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
建物及び構築物	0百万円	27百万円
機械装置及び運搬具	0	3
工具、器具及び備品	1	1
リース資産	-	5
ソフトウェア	-	0
除却費用	87	242
計	90	281

5 減損損失

前連結会計年度(自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

(1) 資産グルーピングの方法

当社グループは、資産を事業資産、遊休資産等にグループ化し、事業資産については、事業領域等をグルーピングの最小単位とし、遊休資産等については個別の物件を最小単位としております。

(2) 減損損失を認識した資産グループおよび減損損失計上額、資産種類ごとの内訳

場所	用途	種類	金額(百万円)
秋田県秋田市 (秋田事業所)	事業資産	建物および借地権等	1,930
群馬県高崎市 (高崎事業所)	事業資産	建物および土地等	620

(3) 減損損失を認識するに至った経緯

収益性の低下等により、一部資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。

(4) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は、各資産グループ単位で将来キャッシュ・フローを3.56%で割り引いて算定した使用価値と、不動産鑑定評価に基づく評価額等を用いて合理的に算出した正味売却価額のいずれか高い額としております。

当連結会計年度(自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)

該当事項はありません。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額および税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	3百万円	12百万円
組替調整額	-	-
税効果調整前	3百万円	12百万円
税効果額	0	3
その他有価証券評価差額金	2百万円	8百万円
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	106百万円	157百万円
組替調整額	18	9
税効果調整前	124百万円	148百万円
税効果額	37	47
退職給付に係る調整額	86百万円	101百万円
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	- 百万円	5百万円
組替調整額	-	-
税効果調整前	- 百万円	5百万円
税効果額	-	1
繰延ヘッジ損益	- 百万円	3百万円
その他の包括利益合計	89百万円	106百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)

1. 発行済株式の種類および総数並びに自己株式の種類および株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (千株)	当連結会計年度 増加株式数 (千株)	当連結会計年度 減少株式数 (千株)	当連結会計年度末株 式数 (千株)
発行済株式				
普通株式(注)1	9,674	6	-	9,680
合計	9,674	6	-	9,680
自己株式				
普通株式(注)2	-	181	-	181
合計	-	181	-	181

(注)1. 普通株式の発行済株式総数の増加6千株は新株予約権の権利行使による新株発行によるものであります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の増加181千株は、自己株式の取得によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月9日 取締役会	普通株式	261	利益剰余金	27	平成28年4月30日	平成28年7月12日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月9日 取締役会	普通株式	208	利益剰余金	22	平成29年4月30日	平成29年7月11日

当連結会計年度（自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日）

1. 発行済株式の種類および総数並びに自己株式の種類および株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (千株)	当連結会計年度 増加株式数 (千株)	当連結会計年度 減少株式数 (千株)	当連結会計年度末株 式数 (千株)
発行済株式				
普通株式(注)1	9,680	43	-	9,724
合計	9,680	43	-	9,724
自己株式				
普通株式(注)2	181	116	-	297
合計	181	116	-	297

- (注) 1. 普通株式の発行済株式総数の増加43千株は新株予約権の権利行使による新株発行によるものであります。  
2. 普通株式の自己株式の株式数の増加116千株は、自己株式の取得によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月9日 取締役会	普通株式	208	利益剰余金	22	平成29年4月30日	平成29年7月11日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成30年6月8日 取締役会	普通株式	207	利益剰余金	22	平成30年4月30日	平成30年7月10日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)  
現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)
現金及び預金勘定	3,221百万円	2,749百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	3,221	2,749

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(1) 所有権移転ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

ホテル事業におけるLED設備(建物及び構築物)であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(2) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

主として、ホテル事業における複合機(工具、器具及び備品)、送迎用バスおよび営業車両(機械装置及び運搬具)であります。

(イ) 無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
1年内	96	424
1年超	1,558	7,082
合計	1,654	7,506

なお、オペレーティング・リース取引の内容は、不動産賃借によるものであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については、短期的な預金等に限定し、資金調達については、主として銀行借入や社債発行により調達しております。

デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容およびそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、業務上の関係を有する企業の株式であり、上場株式については市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。また、借入金、割賦未払金および社債は、設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、償還日は最長で決算日後9年であります。このうち一部は、金利の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、与信管理規程に従い、売掛金について、各事業部門における経理部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日および残高を管理するとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社グループは、投資有価証券について、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

また、当社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2. 参照）。

前連結会計年度（平成29年4月30日）

	連結貸借対照表計上額 （百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	3,221	3,221	-
(2) 売掛金	854	854	-
(3) 投資有価証券	31	31	-
資産計	4,107	4,107	-
(1) 1年内償還予定の社債	165	169	3
(2) 1年内返済予定の長期借入金	948	964	15
(3) 未払金	1,204	1,204	0
(4) 社債	253	253	0
(5) 長期借入金	5,055	4,917	137
(6) 長期未払金	171	169	1
負債計	7,798	7,679	118

当連結会計年度（平成30年4月30日）

	連結貸借対照表計上額 （百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	2,749	2,749	-
(2) 売掛金	977	977	-
(3) 投資有価証券	43	43	-
資産計	3,769	3,769	-
(1) 1年内償還予定の社債	165	166	1
(2) 1年内返済予定の長期借入金	1,922	1,971	49
(3) リース債務（流動）	326	379	53
(4) 未払金	1,244	1,244	0
(5) 社債	88	88	0
(6) 長期借入金	7,632	7,636	4
(7) リース債務（固定）	4,879	4,857	21
(8) 長期未払金	164	161	3
負債計	16,423	16,507	84
(9) デリバティブ取引	(5)	(5)	0

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

負 債

(4) 割賦以外の未払金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(1) 1年内償還予定の社債、(2) 1年内返済予定の長期借入金、(3) (7) リース債務、(4) (8) 割賦未払金、(5) 社債、並びに(6) 長期借入金

これらの時価について、元本返済の期間ごとに、その将来キャッシュ・フローを新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(9) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については( )で示してしております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
非上場株式(*1)	12	12

(\*1) これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、(3)「投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年4月30日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	3,131	-	-	-
売掛金	854	-	-	-
合計	3,986	-	-	-

当連結会計年度(平成30年4月30日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	2,648	-	-	-
売掛金	977	-	-	-
合計	3,625	-	-	-

## 4. 社債、長期借入金および長期未払金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度（平成29年4月30日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
社債	165	165	66	22	-	-
長期借入金	948	1,172	1,092	934	809	1,045
長期未払金	65	45	39	13	13	11
合計	1,179	1,382	1,198	970	823	1,056

当連結会計年度（平成30年4月30日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
社債	165	66	22	-	-	-
長期借入金	1,922	1,846	1,688	1,563	1,395	1,138
リース債務	326	378	373	368	363	3,395
長期未払金	54	48	22	23	20	49
合計	2,470	2,002	1,769	1,618	1,442	6,871

（有価証券関係）

重要性がないため、記載を省略しております。

（デリバティブ取引関係）

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度（平成29年4月30日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（平成30年4月30日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	3,750	3,750	5

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社および連結子会社は、確定給付企業年金制度を採用しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
退職給付債務の期首残高	2,294百万円	2,305百万円
勤務費用	125	130
利息費用	11	11
数理計算上の差異の発生額	10	26
退職給付の支払額	136	186
退職給付債務の期末残高	2,305	2,235

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
年金資産の期首残高	1,699百万円	1,870百万円
期待運用収益	22	24
数理計算上の差異の発生額	117	131
事業主からの拠出額	168	170
退職給付の支払額	136	186
年金資産の期末残高	1,870	2,010

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (平成30年 4月30日)
積立型制度の退職給付債務	2,305百万円	2,235百万円
年金資産	1,870	2,010
	435	224
非積立型制度の退職給付債務	-	-
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	435	224
退職給付に係る負債	435	224
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	435	224

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
勤務費用	125百万円	130百万円
利息費用	11	11
期待運用収益	22	24
数理計算上の差異の費用処理額	9	18
その他	6	6
確定給付制度に係る退職給付費用	130	106

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)
数理計算上の差異	115百万円	139百万円
その他	8	8
合 計	124	148

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
未認識数理計算上の差異	147百万円	287百万円
その他	14	5
合 計	133	281

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
株式	54%	52%
債券	33	32
その他	13	16
合 計	100	100

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在および予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在および将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

	前連結会計年度 (自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)
割引率	0.5%	0.5%
長期期待運用収益率	1.3	1.3
予定昇給率	2.4	2.4

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額および科目名

該当事項はありません。

2. スtock・オプションの内容、規模およびその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成22年12月ストック・オプション
付与対象者の区分および人数(名)	当社取締役 7
	当社使用人 31
	当社子会社取締役 5
	当社子会社使用人 4
株式の種類別のストック・オプションの数(注)1	普通株式 300,000株
付与日	平成22年12月10日
権利確定条件	(注)2
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません
権利行使期間	自平成25年8月30日 至平成32年10月29日

(注)1. 株式の種類別のストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

2. 平成23年4月末日に当会社又は当会社子会社の取締役、監査役、執行役員又は使用人である場合、付与個数のうち、2分の1に達する個数を権利確定した新株予約権とする。その後、平成24年4月末日に当会社又は当会社子会社の取締役、監査役、執行役員又は使用人である場合、付与個数の残り2分の1について権利確定するものとする。

(2) スtock・オプションの規模およびその変動状況

当連結会計年度(平成30年4月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	平成22年12月ストック・オプション
権利確定前 (株)	
前連結会計年度末	-
付与	-
失効	-
権利確定	-
未確定残	-
権利確定後 (株)	
前連結会計年度末	171,600
権利確定	-
権利行使	43,600
失効	-
未行使残	128,000

単価情報

		平成22年12月ストック・オプション
権利行使価格	(円)	1,000
行使時平均株価	(円)	1,452
付与日における公正な評価単価	(円)	-

3. スtock・オプションの公正な評価単価の見積方法

Stock・オプションを付与した日時点においては、当社は未公開企業であるため、Stock・オプションの公正な評価単価の見積り方法を単位当たりの本源的価値の見積りによっております。

また、単位当たりの本源的価値の算定の基礎となる自社の株式価値は、ディスカウントテッド・キャッシュ・フロー方式および類似会社比準方式の併用方式により算定しております。

4. Stock・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

5. Stock・オプションの単位当たりの本源的価値により算定を行う場合の当連結会計年度末における本源的価値の合計額および当連結会計年度において権利行使されたStock・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

(1) 当連結会計年度末における本源的価値の合計額	66百万円
(2) 当連結会計年度中において権利行使された本源的価値の合計額	19百万円

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	33百万円	34百万円
賞与引当金	90	101
ポイント引当金	9	1
未払事業税	24	7
退職給付に係る負債	134	68
減損損失	776	571
繰越欠損金	56	209
その他	105	96
繰延税金資産小計	1,230	1,075
評価性引当額	757	678
繰延税金資産合計	472	397
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1	3
繰延税金負債合計	1	3
繰延税金資産の純額	471	393

(注) 前連結会計年度および当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
流動資産 - 繰延税金資産	200百万円	161百万円
固定資産 - 繰延税金資産	271	232

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
法定実効税率 (調整)	税金等調整前当期純損失を計上しているため記載を省略しております。	30.86%
交際費等永久に損金に算入されない項目		2.0%
住民税均等割		4.6%
評価性引当額の増減		22.9%
その他		0.1%
税効果会計適用後の法人税等の負担率		14.6%

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

建物の建設時等に使用した有害物質(アスベスト、PCB、フロンガスおよびハロンガス)の除去費用であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

全ての対象資産が耐用年数を経過しているため、将来の資産除去に係る費用金額を、資産除去債務の金額としております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
期首残高	47百万円	47百万円
資産除去債務の履行による減少額	-	3
期末残高	47	43

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、各種サービスの特性や、これらの提供を行う営業拠点を基礎とする事業別セグメントから構成されており、「ホテル事業」、「施設運営事業」および「遊園地事業」の3つを報告セグメントとしております。

「ホテル事業」とは、ホテル事業およびこれに付帯する業務を行っている事業であります。「施設運営事業」とは、ホテルならびに旅館の運営、運營業務受託、運営指導およびビル管理業務等ホテル関連サービス業を営んでいる事業であります。「遊園地事業」とは、遊園地事業およびこれに付帯する業務を行っている事業であります。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益および振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額 (注)2
	ホテル	施設運営	遊園地	計		
売上高						
外部顧客への売上高	17,095	1,706	1,378	20,179	-	20,179
セグメント間の内部売上高又は 振替高	21	67	1	90	90	-
計	17,116	1,773	1,379	20,269	90	20,179
セグメント利益又は損失( )	1,361	22	32	1,351	10	1,362
セグメント資産	20,241	876	2,182	23,301	165	23,135
その他の項目						
減価償却費	1,004	23	106	1,133	-	1,133
有形固定資産及び無形固定資産 の増加額	1,661	20	618	2,300	-	2,300

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

(1) 売上高の調整額は、事業セグメント間取引消去であります。

(2) セグメント利益又は損失の調整額は、事業セグメント間取引消去であります。

(3) セグメント資産の調整額は、事業セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	ホテル	施設運営	遊園地	計		
売上高						
外部顧客への売上高	18,339	1,699	1,255	21,294	-	21,294
セグメント間の内部売上高又は 振替高	25	69	1	95	95	-
計	18,365	1,768	1,256	21,390	95	21,294
セグメント利益又は損失（ ）	602	21	17	607	10	617
セグメント資産	28,191	822	2,203	31,217	171	31,046
その他の項目						
減価償却費	1,448	23	104	1,576	-	1,576
有形固定資産及び無形固定資産 の増加額	9,261	27	52	9,341	-	9,341

(注) 1 調整額は以下のとおりであります。

- (1) 売上高の調整額は、事業セグメント間取引消去であります。
- (2) セグメント利益又は損失の調整額は、事業セグメント間取引消去であります。
- (3) セグメント資産の調整額は、事業セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日）

1．製品およびサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日）

1．製品およびサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日）

（固定資産に係る重要な減損損失）

「ホテル事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当連結会計年度においては2,551百万円であります。

当連結会計年度（自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日）

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

## 【関連当事者情報】

該当事項はありません。

## ( 1株当たり情報 )

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
1株当たり純資産額	1,323.84円	1,342.22円
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額( )	160.83円	31.54円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	-円	31.39円

(注) 1. 前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額および潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額		
親会社株主に帰属する当期純利益金額又は親会社株主に帰属する当期純損失金額( ) (百万円)	1,554	297
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額又は親会社株主に帰属する当期純損失金額( )(百万円)	1,554	297
期中平均株式数(千株)	9,666	9,415
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	-	45
(うち新株予約権(千株))	-	(45)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	-	-

(重要な後発事象)  
該当事項はありません。

## 【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率(%)	担保	償還期限
日本ビューホテル㈱	第3回無担保社債 (注)1	平成年月日 24.8.31	180 (80)	100 (80)	1.0	(注)2	平成年月日 31.8.30
日本ビューホテル㈱	第4回無担保社債 (注)1	24.9.28	117 (52)	65 (52)	1.0	(注)3	31.9.30
日本ビューホテル㈱	第5回無担保社債 (注)1	25.9.30	121 (33)	88 (33)	1.0	(注)3	32.9.30
合計	-	-	418 (165)	253 (165)	-	-	-

(注)1.( )内書は、1年以内の償還予定額であります。

2. 建物および土地1,500百万円について根抵当権を設定しております。
3. 建物および土地975百万円について根抵当権を設定しております。
4. 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
165	66	22	-	-

## 【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定の長期借入金	948	1,922	0.9	-
1年以内に返済予定のリース債務	48	326	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	5,055	7,632	0.9	平成30年～平成38年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	90	4,879	-	平成30年～平成44年
その他有利子負債				
1年以内に返済予定の割賦未払金	64	53	1.2	-
割賦未払金(1年以内に返済予定のものを除く。)	121	115	1.2	平成30年～平成35年
合計	6,309	14,929	-	-

(注)1.平均利率については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

- 2.リース債務の平均利率については、一部のリース債務について、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
- 3.長期借入金、リース債務およびその他有利子負債(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	1,846	1,688	1,563	1,395
リース債務	378	373	368	363
その他有利子負債 割賦未払金	48	22	23	20

## 【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首および当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首および当連結会計年度末における負債および純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

( 2 ) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

( 累計期間 )	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	5,536	10,839	16,270	21,294
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	387	265	381	347
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益金額 (百万円)	260	173	271	297
1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	27.60	18.40	28.87	31.54

( 会計期間 )	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1株当たり四半期 純利益金額又は 1株当たり四半期 純損失金額( ) (円)	27.60	9.29	10.47	2.69

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当事業年度 (平成30年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,552	1,945
売掛金	3,735	3,852
貯蔵品	120	128
前払費用	93	86
繰延税金資産	143	129
未収入金	3,95	3,643
未収還付法人税等	-	151
その他	3,234	3,221
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	3,974	4,157
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,8,879	1,11,900
構築物	145	152
機械及び装置	166	204
車両運搬具	0	0
工具、器具及び備品	1,309	1,365
土地	1,4,505	1,4,504
建設仮勘定	385	379
リース資産	40	4,701
有形固定資産合計	14,432	22,207
無形固定資産		
投資その他の資産	33	34
投資有価証券	32	45
関係会社株式	34	34
出資金	20	20
破産更生債権等	3	7
長期前払費用	14	3
繰延税金資産	295	304
差入保証金	777	772
その他	72	74
貸倒引当金	1	5
投資その他の資産合計	1,249	1,257
固定資産合計	15,715	23,498
資産合計	19,690	27,656

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当事業年度 (平成30年4月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	3,820	3,754
1年内償還予定の社債	1,165	1,165
1年内返済予定の長期借入金	1,912	1,1,869
リース債務	36	312
未払金	1,3974	1,3983
未払法人税等	275	-
未払消費税等	152	-
前受金	121	106
預り金	3,108	3,117
賞与引当金	233	273
ポイント引当金	26	1
その他	8	9
<b>流動負債合計</b>	<b>3,835</b>	<b>4,593</b>
<b>固定負債</b>		
社債	1,253	1,88
長期借入金	14,611	17,242
リース債務	39	4,855
退職給付引当金	517	457
資産除去債務	47	43
長期未払金	1,171	1,164
長期預り保証金	140	131
<b>固定負債合計</b>	<b>5,780</b>	<b>12,983</b>
<b>負債合計</b>	<b>9,616</b>	<b>17,576</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	2,769	2,791
<b>資本剰余金</b>		
資本準備金	1,679	1,701
その他資本剰余金	9	9
<b>資本剰余金合計</b>	<b>1,688</b>	<b>1,710</b>
<b>利益剰余金</b>		
<b>その他利益剰余金</b>		
繰越利益剰余金	5,859	5,977
<b>利益剰余金合計</b>	<b>5,859</b>	<b>5,977</b>
自己株式	247	408
<b>株主資本合計</b>	<b>10,070</b>	<b>10,071</b>
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	3	11
繰延ヘッジ損益	-	3
<b>評価・換算差額等合計</b>	<b>3</b>	<b>7</b>
<b>純資産合計</b>	<b>10,073</b>	<b>10,079</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>19,690</b>	<b>27,656</b>

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)	当事業年度 (自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)
売上高	1 16,789	1 18,021
売上原価	1 4,294	1 4,290
売上総利益	12,494	13,731
販売費及び一般管理費	1, 2 11,123	1, 2 13,124
営業利益	1,370	606
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	0	0
受取賃貸料	1 17	1 17
業務受託料	1 11	1 10
受取補償金	9	56
その他	1 67	1 71
営業外収益合計	106	156
営業外費用		
支払利息	73	139
資金調達費用	53	-
株式公開費用	0	-
支払手数料	49	-
その他	22	29
営業外費用合計	199	169
経常利益	1,277	593
特別利益		
固定資産売却益	1 0	1 23
投資有価証券売却益	3	3
特別利益合計	3	27
特別損失		
固定資産除却損	83	277
減損損失	2,551	-
訴訟和解金	31	-
特別損失合計	2,666	277
税引前当期純利益又は税引前当期純損失( )	1,384	343
法人税、住民税及び事業税	372	13
法人税等調整額	172	2
法人税等合計	199	15
当期純利益又は当期純損失( )	1,584	327

## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日）

（単位：百万円）

	株主資本							評価・換算差額等			純資産 合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己 株式	株主 資本 合計	その他 有価証 券評価 差額金	繰延 ヘッジ 損益		評価・ 換算 差額等 合計
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計	その他 利益 剰余金 繰越 利益 剰余金	利益 剰余金 合計						
当期首残高	2,766	1,676	9	1,685	7,704	7,704	-	12,156	1	-	1	12,157
当期変動額												
新株の発行	3	3		3				6				6
剰余金の配当					261	261		261				261
当期純損失 ( )					1,584	1,584		1,584				1,584
自己株式の取得							247	247				247
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）									2		2	2
当期変動額合計	3	3	-	3	1,845	1,845	247	2,086	2	-	2	2,084
当期末残高	2,769	1,679	9	1,688	5,859	5,859	247	10,070	3	-	3	10,073

当事業年度（自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日）

（単位：百万円）

	株主資本							評価・換算差額等			純資産 合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己 株式	株主 資本 合計	その他 有価証 券評価 差額金	繰延 ヘッジ 損益		評価・ 換算 差額等 合計
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計	その他 利益 剰余金 繰越 利益 剰余金	利益 剰余金 合計						
当期首残高	2,769	1,679	9	1,688	5,859	5,859	247	10,070	3	-	3	10,073
当期変動額												
新株の発行	21	21		21				43				43
剰余金の配当					208	208		208				208
当期純利益					327	327		327				327
自己株式の取得							160	160				160
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）									8	3	4	4
当期変動額合計	21	21	-	21	118	118	160	1	8	3	4	6
当期末残高	2,791	1,701	9	1,710	5,977	5,977	408	10,071	11	3	7	10,079

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準および評価方法

(1) 有価証券

- |          |   |
|----------|---|
| 子会社株式    | 移動平均法による原価法   |
| その他有価証券  |   |
| ・時価のあるもの | 期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） |
| ・時価のないもの | 移動平均法による原価法   |

(2) たな卸資産

- |      |   |
|------|---|
| ・貯蔵品 | 移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定） |
|------|---|

(3) デリバティブ

- |         |     |
|---------|-----|
| ・デリバティブ | 時価法 |
|---------|-----|

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。ただし、浅草事業所の建物（建物附属設備を除く）および平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については、定額法を採用しております。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアにつきましては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

- |                            |                                      |
|----------------------------|--------------------------------------|
| 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  | 自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。 |
| 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 | リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。  |

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度に負担すべき金額を計上しております。

(3) ポイント引当金

将来のポイントギフトカードの利用による売上値引に備えるため、ポイントギフトカード使用実績率に基づき、翌事業年度以降に利用されるポイントギフトカードの見積額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づいて、当事業年度末に発生していると認められる額を退職給付引当金として計上しております。なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

会計基準変更時差異は、15年による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(9年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

4. 重要なヘッジ会計の方法

イ ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

ロ ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...金利スワップ

ヘッジ対象...借入金

ハ ヘッジ方針

金利リスクの低減並びに金融収支改善のため、対象債務の範囲内でヘッジを行っております。

ニ ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税および地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

1 担保に供している資産および担保に係る債務

担保に供している資産

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当事業年度 (平成30年4月30日)
建物	7,168百万円	9,317百万円
工具、器具及び備品	10	6
土地	4,131	4,131
計	11,310	13,455

担保に係る債務

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当事業年度 (平成30年4月30日)
1年内償還予定の社債	165百万円	165百万円
1年内返済予定の長期借入金	912	1,873
未払金	64	53
社債	253	88
長期借入金	4,611	7,238
長期未払金	121	115
計	6,128	9,533

2 保証債務

以下の関係会社の金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当事業年度 (平成30年4月30日)
日本ビューホテル事業株式会社	180百万円	160百万円
那須興業株式会社	300	238
計	480	443

3 関係会社に対する金銭債権および金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当事業年度 (平成30年4月30日)
短期金銭債権	62百万円	41百万円
短期金銭債務	15	3

( 損益計算書関係 )

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当事業年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
営業取引による取引高		
売上高	21百万円	25百万円
仕入高	4	3
販売費及び一般管理費	50	52
営業取引以外の取引高	10	10

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度11%、当事業年度11%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度89%、当事業年度89%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当事業年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
給料及び手当	3,751百万円	4,305百万円
賞与引当金繰入額	233	273
退職給付費用	112	91
減価償却費	976	1,426

( 有価証券関係 )

子会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は34百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は34百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当事業年度 (平成30年4月30日)
(繰延税金資産)		
貸倒引当金	0百万円	1百万円
賞与引当金	71	83
ポイント引当金	8	0
未払事業税	23	6
退職給付引当金	146	130
減損損失	776	571
繰越欠損金	-	124
その他	76	87
繰延税金資産小計	1,103	991
評価性引当額	663	553
繰延税金資産合計	440	438
(繰延税金負債)		
その他有価証券評価差額金	1	3
繰延税金負債合計	1	3
繰延税金資産の純額	438	434

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当事業年度 (平成30年4月30日)
法定実効税率 (調整)	税引前当期純損失を計上しているため記載を省略しております。	30.86%
交際費等永久に損金に算入されない項目		1.9%
住民税均等割		4.1%
評価性引当金額の増減		32.0%
その他		0.3%
税効果会計適用後の法人税等の負担率		4.6%

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】  
【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区 分	資産の種 類	当期首残高	当 期増加額	当 期減少額	当 期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	8,879	3,833	27	785	11,900	20,476
	構築物	145	28	0	20	152	1,019
	機械及び装置	166	94	3	52	204	610
	車両運搬具	0	-	-	-	0	11
	工具、器具及び備品	309	253	1	195	365	1,979
	土地	4,505	-	1	-	4,504	-
	建設仮勘定	385	-	6	-	379	-
	リース資産	40	5,028	5	362	4,701	413
	計	14,432	9,238	47	1,416	22,207	24,511
無形固定資産		33	9	-	9	34	-
	計	14,466	9,248	47	1,426	22,241	24,555

(注) 1. 当期増加額のうち、主なものは次のとおりです。

浅草(1階ロビー改装工事、1階レストラン他改装工事、1階ラウンジ改装工事、受変電設備工事)

建物 1,845百万円

構築物 16百万円

工具、器具及び備品 7百万円

札幌(2-4階の客室改装、buffetレストラン改装工事、ホテル棟リース)

建物 917百万円

工具、器具及び備品 31百万円

機械及び装置 16百万円

リース資産 4,967百万円

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	2	10	6	5
賞与引当金	233	273	233	273
ポイント引当金	26	1	26	1

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年5月1日から翌年4月30日まで															
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヶ月以内															
基準日	4月30日															
剰余金の配当の基準日	10月31日 4月30日															
1単元の株式数	100株															
単元未満株式の買取り	<p>取扱場所 （特別口座） 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部</p> <p>株主名簿管理人 （特別口座） 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社</p> <p>取次所 -</p> <p>買取手数料 無料</p>															
公告掲載方法	<p>当会社の公告は、電子公告とする。但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法で行う。</p> <p>電子公告掲載URL <a href="https://www.viewhotels.co.jp/">https://www.viewhotels.co.jp/</a></p>															
株主に対する特典	<p>毎年4月30日と10月31日現在の株主名簿に記載された株主に対し、「優待券」を、次の基準により贈呈いたします。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>保有株式数</th> <th>優待内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100株以上300株未満</td> <td>500円優待券 4枚（2,000円相当）</td> </tr> <tr> <td>300株以上500株未満</td> <td>500円優待券 6枚（3,000円相当）</td> </tr> <tr> <td>500株以上</td> <td>500円優待券 10枚（5,000円相当）</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>対象施設名</th> <th>利用対象内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>浅草ビューホテル、成田ビューホテル、秋田ビューホテル、伊良湖ビューホテル、両国ビューホテル、札幌ビューホテル大通公園、ホテルビューパレス、ぎょうけい館、ホテルプラザ菜の花、ホテルグリーンパール那須、おくたま路</td> <td>宿泊、レストラン、宴会、婚礼</td> </tr> <tr> <td>那須りんどう湖 LAKE VIEW</td> <td>入園料、レストラン</td> </tr> </tbody> </table> <p>・「優待券」の有効期間は6ヶ月間とします。</p> <p>・平成30年5月22日より大阪ビューホテル本町が対象施設となっております。</p> <p>・平成30年10月31日現在の株主名簿に記載された当社株式1単元（100株）以上を保有される株主様を対象として贈呈する株主優待（平成31年1月送付分）から有効期間を約1年間に変更いたします。また、券面金種も現在の1枚500円から1枚1,000円に変更いたします。（ご優待金額の総額に変更はありません）</p>		保有株式数	優待内容	100株以上300株未満	500円優待券 4枚（2,000円相当）	300株以上500株未満	500円優待券 6枚（3,000円相当）	500株以上	500円優待券 10枚（5,000円相当）	対象施設名	利用対象内容	浅草ビューホテル、成田ビューホテル、秋田ビューホテル、伊良湖ビューホテル、両国ビューホテル、札幌ビューホテル大通公園、ホテルビューパレス、ぎょうけい館、ホテルプラザ菜の花、ホテルグリーンパール那須、おくたま路	宿泊、レストラン、宴会、婚礼	那須りんどう湖 LAKE VIEW	入園料、レストラン
保有株式数	優待内容															
100株以上300株未満	500円優待券 4枚（2,000円相当）															
300株以上500株未満	500円優待券 6枚（3,000円相当）															
500株以上	500円優待券 10枚（5,000円相当）															
対象施設名	利用対象内容															
浅草ビューホテル、成田ビューホテル、秋田ビューホテル、伊良湖ビューホテル、両国ビューホテル、札幌ビューホテル大通公園、ホテルビューパレス、ぎょうけい館、ホテルプラザ菜の花、ホテルグリーンパール那須、おくたま路	宿泊、レストラン、宴会、婚礼															
那須りんどう湖 LAKE VIEW	入園料、レストラン															

（注） 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨、定款に定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書およびその添付書類並びに確認書

事業年度（第69期）（自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日）平成29年7月28日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書およびその添付書類

平成29年7月28日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書および確認書

（第70期第1四半期）（自 平成29年5月1日 至 平成29年7月31日）平成29年9月13日関東財務局長に提出

（第70期第2四半期）（自 平成29年8月1日 至 平成29年10月31日）平成29年12月13日関東財務局長に提出

（第70期第3四半期）（自 平成29年11月1日 至 平成30年1月31日）平成30年3月13日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成29年8月3日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

(5) 自己株権買付状況報告書

報告期間（自 平成29年7月1日 至 平成29年7月31日）平成29年8月10日関東財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年7月27日

日本ビューホテル株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 甘樂 眞明 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 江下 聖 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本ビューホテル株式会社の平成29年5月1日から平成30年4月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本ビューホテル株式会社及び連結子会社の平成30年4月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日本ビューホテル株式会社の平成30年4月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、日本ビューホテル株式会社が平成30年4月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は監査報告書及び内部統制監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年7月27日

日本ビューホテル株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 甘樂 眞明 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 江下 聖 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本ビューホテル株式会社の平成29年5月1日から平成30年4月30日までの第70期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本ビューホテル株式会社の平成30年4月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。